

可認局遞驛

明治二十年四月二十三日發兌

第壹年級

英吉利法律講義錄

第三拾二號

英吉利法律學校



目次

○論理學 (第三十號ノ續キ) 文學士 坪井九馬三 畔上啓策筆記

○法學通論 (第二十五號ノ續キ) 法學士 山田喜之助 畔上啓策筆記

○契約法 (第三十號ノ續キ) 法學士 土方寧 山口正毅筆記

○組合法 (第三十號ノ續キ) 法學士 松野貞一郎 畔上啓策筆記

○動產委託法 法學士 奧田義人 山口正毅筆記

○演說 パリストル 法學士 增島六一郎 述

○質問 (第三十號ノ續キ)

定過ヲ犯ス道ナリ故ニ固ヨリ其當ヲ得タルモノニアラス古例ニモア

定過ヲ犯ス道ナリ故ニ固ヨリ其當ヲ得タルモノニアラス古例ニモアル如ク判事ノ被告人ヲ審問スルトキ曰ク其方ハ盜賊ヲ働クコトヲ廢セシ乎ト斯ノ如キ問ニ對シテハ被告ハ之レニ答フルニ道ナキナリ蓋シ此問タル二條ニ區別スルコトヲ得其一ハ被告人ハ嘗テ惡事ヲ働キシコトアルカトノコトニシテ其二ハ若シ嘗テ惡事ヲ働キシコトアラハ現今マテモ尙ホ之レヲ爲スカトノコトナリ然ルニ此問ニテハ被告人若シ現在ハ止メタリト答フレハ元ト爲シタルコト、爲ル可シ故ニ被告ハ須ラク之レヲ二ツニ分析シテ答ヘサル可カラス判官モ亦尋問ヲ爲スニ當リテハ宜シク之レヲ數多ノ命題ニ細分シテ然ル後チ問ハサル可カラス

一體法律ヲ學ハル、諸君ハ能ク人ノ言フ所チ箇條ナトニ分テテ議論セラル、カ故ニ直チニ其是非ヲ決スルヲ得レトモ法律學ナトチ御承

知ナキ人ハ往々無暗ニ論ヲ混同シテ討論セラル、ヲ以テ何時モ纏ラ  
サルナリ此等ノコトハ能ク御承知ノコトナラシムナレトモ因ニ申スナ  
リ

猶論ス可キモノ夥多アレトモ之レヲ省キ續釋法ノ講義ヲ此ニ終フ

續釋法終

論理學目次

續釋法

第一編 總論

第一章 論理學原義

第二章 論理學大別

第一項 續釋論理

第二項 歸納論理

第三項 續釋法歸納法相關

第三章 論理主用

第二編 命題

第一章 命題類別

第一項 句類總論

一丁

六丁

六丁

七丁

九丁

十二丁

十四丁

十四丁

第二項 命題ノ類別

十八丁

第二章 命題辯義

二十五丁

第一項 語辭辯義

二十五丁

第二項 正定周義命題

二十七丁

第三項 否定周義命題

三十一丁

第四項 正定不周義命題

三十二丁

第五項 否定不周義命題

三十三丁

第六項 顯限命題

三十五丁

第七項 駢題命題

三十七丁

第三章 命題相關

四十丁

第四章 主賓位周布

四十四丁

第一項 周布釋義

四十四丁

第二項 正定周義命題

四十六丁

第三項 否定周義命題

四十七丁

第四項 正定不周義命題

四十九丁

第五項 否定不周義命題

五十丁

第五章 命題轉換

第一項 尋常轉換法

五十一丁

第二項 直轉法

五十五丁

第三項 加限轉換法

五十五丁

第四項 乖戾轉換法

五十七丁

第六章 命題推演

第一項 推演原義

五十九丁

第二項 反定推演法

五十九丁

第三項 事實反定推續法

五十九丁

第四項 乖戾推續法

六十丁

第五項 係辭推續

六十二丁

第三編 論式

六十四丁

第一章 論式說明

六十四丁

論式規則ヲ論ス

六十九丁

第二章 論式制定

八十二丁

第一項 豫定式

八十二丁

第二項 確定式

八十四丁

第三章 變體論式

九十五丁

第一項 散體

九十七丁

第二項 畧體

百丁

第三項 異體

百二丁

第四項 失體

百四丁

第五項 鏈體

百五丁

第四章 有限論式

第一項 顯限論式

百八丁

第二項 駢顯論式

百十五丁

第五章 過誤

第一項 謎誤之過

百二十一丁

第二項 謎句之過

百二十二丁

第三項 聚合及分釋之過

百二十三丁

第四項 音節之過

百二十五丁

第五項 語類之過

百二十五丁

第六章 事實過誤

第一項 偶有之過

百二十六丁

第二項 偶有轉換

百二十七丁

第三項 不法斷案之過

百二十八丁

第四項 不應推續之過

百二十九丁

第五項 伏藏斷案之過

百三十三丁

第六項 原因相違之過

百三十三丁

第七項 多問之過

百三十六丁

續釋法目次終

六

英吉利法ニテハ賣買ハ則チ引渡ニシテ賣買ノ豫約ハ契約ナリトス佛

英吉利法ニテハ賣買ハ則チ引渡ニシテ賣買ノ豫約ハ契約ナリトス佛  
蘭西法律ハ之レニ反シ賣買ヲ以テ契約トナセリ英吉利法ニテハ賣  
可シ買フ可シト云フトキハ賣買成立シ其賣買ハ直チニ所有權ヲ移轉  
スルナリ而シテ其故ハ賣買ヲ以テ引渡シト爲セハナリ佛法ハ契約ヲ  
以テ直チニ所有權ヲ移轉スルモノトセリ

婚姻ハ一ノ取引ナレトモ契約ニハアラサルナリ此婚姻ノ契約ニアラ  
サルコトハ諸君モ既ニ了解セラル、ナラン婚姻ノ契約ハ契約ニ相違  
ナケレトモ婚姻スル所爲其レ自カラ契約ニアラサルナリ詳細ハ拙著  
親族法ヲ見ヨ

### ○解<sup>v</sup>除

解除モ亦取引ノ一種類ニシテ既ニ存在シタル權利ヲ解放免除スルヲ  
云フ此解除ハ色々ノ形ニ由リテ成立スルモノニシテ或ハ捺印證書ヲ

以テシ或ハ通常ノ證書ヲ以テスルコトアリ恰モ契約ノ形ヲ成シテ存立スルモノナリ例ニハ貴殿ニ貸シタル金ハ返濟ニ及ハスト云フカ如シ然レトモ解除ハ既ニ成立シタル權利若クハ義務ヲ取消スマテノ者ニテ必ス之ヲ以テ何レノ場合ニ於ケルモ契約ナリトハ云フ可ラサルナリ今簡畧ニ解除ト契約ト引渡トヲ區別スルトキハ如左

契約……新……對人權ヲ生ス

引渡……舊……對人權又ハ對世權ヲ移ス

解除……舊……對人權又ハ對世權ヲ消滅ス

此三ツノ區別ハ昭々乎トシテ明ラカナリ一タヒ了解スルトキハ復迷ヒナ生スルコトナシ而シテ契約ニ由リテ對世權ヲ生スル場合ハ能ク々々觀察スルトキハ對世權其物ヲ生スルハ契約直効ニアラスシテ契約ト共ニ成立シ之レニ包含セラル、引渡ノ效ナリトス之ヲ例セハ賣買

如ノシ賣買ナルモノハ英國ニテハ契約ト見スシテ引渡ノ一種トスル

如ノシ賣買ナルモノハ英國ニテハ契約ト見スシテ引渡ノ一種トスルナリ何トナレハ賣買ハ對世權ヲ彼ヨリ是ヘ引渡スモノナレハナリ尤モ賣買ノ目的物ハ對人權ナル場合アレトモソハ設令對人權ナルニモセヨ賣買其レ自カラハ引渡ナリトス

○<sup>ろ</sup>占有論ス

占有トハ所有權ニ密切ノ關係ヲ有スルモノニシテ刑法ニ於ケルモ必用重大ナル一問題ナリ此占有トハ六ヶ敷キ志想ニシテ今ハ充分諸君ナシテ了解セシムルニ困難ナリト雖モ之ヲ明カコ了解セサルトキハ所有權ノ眞ニ何物タルコトヲ知ル能ハサルナリ又刑法ハ占有ノ有無ニ付犯罪ノ性質ヲ異ニスルコトアル也

占有ニ關シ第一ニ云フ可キコトハ占有ハ事實ナリヤ將タ權利ナリヤト云フコト古來ヨリ學者ノ喋々論スル處ナリ然レトモ今日ニ在リテハ

占有ハ事實及ヒ權利ノ兩方ノ名ニ用ヰララル、モノナリ而シテ斯ク二個ノ思想ニ同一ノ言葉ヲ用ヰレハ、謬解ヲ惹起スノ恐アリ故ニ此講義ニ於テハ事實ヲ指ストキハ單ニ占有ト稱シ權利ヲ指ストキハ占有權ト稱スヘシ宜シクコ、ニ注意シテ聞カサル可カラス

先ツ第一占有ノ事實ヨリ研究センニ占有ニハ二ツノ種類アリテ其一ハ自然ノ占有其二ハ法律上ノ占有ナリ、自然ノ占有ヲ「デテンション」ト唱エ法律上ノ占有ヲ「ポッセッション」ト唱フ而シテ單ニ占有ト云ヘハ法律上ノ占有ヲ云フナリ

占有ノコトハ英法ト羅馬法ト異ナリテ今說ク處ハ英法ナリ英法ニ於テ占有ノ原素トナスモノ三アリ(第一)占有ニ必用ナル支配力(第二)占有ニ必要ナル意思(第三)占有ニ必用ナル拒絶是レナリ此三者ヲ具備セザレハ占有トハナラサルナリ

第一支配力 支配力トハ占有セントスル物件ヲ充分自カラ左右スルノ地位ニ立チ云フ即チ此書物ヲ管守シ又ハ彼ヨリ是ニ移ス等其占有ニ係ル物件ヲ自己ニ支配スルヲ必用トス然レモ法律ニ必要トスル所ノ支配力ハ其甚タ微弱ナル場合迄チモ含蓄スル者ナリ例エハ一ノ寶石ヲ自己ノ手ニ握ルトキハ之ヲ占有トナスコト勿論ナレモ握有ノミヲ以テ必要ナル支配力トナスキハ吾人ハ幾干ノ物ヲモ占有シ能ハサルカ故ニ徒ニ手ニ握レル場合ノミナラス吾人カ其他ノ法方ヲ以テ支配セルモノハ總テ占有トナサ、ルヘカラス例セハ倉ヲ預リ其鍵ヲ持ツトキハ占有トナルヘシ是レ現在支配力ヲ有スレハナリ又ホルムスハ小兒カ貴重ノ財物ヲ有シ町ヲ往來シ千百ノ群盜後ヨリ附ケ行クトキハ小兒ノ其財物ヲ支配スルカハ薄弱ナレトモ尙之ヲ占有トナスト云ヘリ依之觀是ハ法律ハ支配力ノ強弱ヲ問ハス苟モ之レアリトナス

トキハ設令弱キモ危険ナルモ尙法律ハ占有ト見做スト知ル可シ故ニ  
 實地ヨリ云ヘハ支配力無キカ如キトキニモ法律ハ有リト見做スコト  
 アルエシ例エハ机ノ「引出」シニ入レタルト思ヒシニ全ク思ヒ違ニテ何  
 時<sup>ツ</sup>ノ間ニカ書物箱ニ入レタルトキノ如キモ占有ヲ失ヒタリトセス何  
 トナレハ一旦占有ヲ得タル以上ハ之ヲ放棄スルカ又ハ他人ニ害セラ  
 レサル間ハ占有アリトスレハナリ乍併支配力ヲ得ントシテ未タ得サ  
 ルトキハ占有ト云ハサルナリ例エハ林中ニ鳥ヲ射タルヲ拾ヒ上ケタ  
 ルトキハ占有ナレトモ墻壁アルカ爲メ拾ヒ得スシテ他人之ヲ持去リ  
 タルトキハ占有ヲ得タリトセス恰モ得ントシタルモ未タ得サル故ナリ  
 又事實而已ヨリ論スレハ未タ占有アリト爲ス可ラサルモ法律又ハ習  
 慣上ヨリ之ヲ占有アリトナスコトアリ例エハ米國ニテ鯨ヲ捕獲スル  
 ニ鎗ヲ投スルナリ固ヨリ一本ヤ二本ノ鎗モテ死スヘキ者ニアラサレ

ハ其鎗ヲ投シタルヲ以テ直ニ鯨ヲ漁シ得タル者ト云フ可ラス併シ若

ハ其鎗ヲ投シタルヲ以テ直ニ鯨ヲ漁シ得タル者ト云フ可ラス併シ若シ他日其鯨斃死シテ發見セラルレハ法律ハ曩キニ投鎗シタル者ニ占有アルモノト見做スナリ野獸ヲ獵スルカ如キモ習慣上ヨリ此ノ如ク見做スコトアリ又六ヶ敷キ例ハ「ドロ」箱ハ寶ヲ入レ之レニ蓋ヲ施サ、ルカ又ハ鍵ト共ニ托スルトキハ受托人ニ占有アリトシ若シ其箱ニ蓋ヲナシ鍵ヲ渡サ、ルトキハ受托人ハ占有ナシトス何トナレハ筐中ノ物ニ付キ支配力ヲ有セサルカ爲ナリ此例ヲ以テ考ヘテモ支配力ノ如何ハ諸君モ畧解得セラレシナラン又刑法上ニ關係アル一例ヲ示セハ「ドロ」箱ヲ鍵ト共ニ預リタルトキ受托人之ヲ取ルトキハ委託物消費ノ罪トナリ反之唯「ドロ」箱ノミ預ケ鍵ハ本人之ヲ所有スルトキ受托人合ヒ鍵ヲ以テ筐中ノ物ヲ取り出シタルトキハ竊盜ノ罪トナルカ如シ斯ノ如ク占有ノ有無ハ自カラ罪名ニモ異動ヲ生シ隨テハ罪ノ輕重ニモ

差違ヲ生スル者ナリ  
 第二意思 英法ニテハ占有ニ必要ナル意思ハ占有者カ自己ニ占有セ  
 ントスル意思アレハ足レリトス則自己現ニ物件上ニ行フ所爲ト同一  
 ノ意思アレハ充分ナリ斯ク言ヘハ疑モ無キヲナレト羅馬法ニテハ占  
 有者カ其物件ヲ占有セントスル意思ヲ有スル而已ニテハ充分トセス  
 所有セントスルノ意思アルヲ必用トス即チ例ヲ以テ示セハ英法ニテ  
 ハ一ノ書物ヲ支配シテ自己ニ占有セントスル意思アレハ充分占有者  
 トスレト羅馬法ハ其書物ヲ支配スルノミナラス我カ書物ナリ我所有  
 物ナリトスルノ意思ヲ必用トス  
 譬エハ余ハ權右衛門ヨリ一ノ書物ヲ預リ儲ニ之ヲ保監セン爲メ倉ニ  
 入レタルトキハ余ハ監守スル所爲アリ又意思アリ故ニ物ノ預リ主即  
 余ハ其物ノ占有者ナリ然ルニ羅馬法ニテハ之ヲ以テ占有者トナサス

トノ契約ニヨリテ多クハ第二ノ結果ヲ生スルヲ以テ代理ト云ヘハ代理ノ契約ト解スル者アルモ謬見ノ甚シキ者ナリ代理ノ重ナル性質ハ第二ノ結果ヲ生セシムルニアリ契約ニ非サルナリ故ニ代理人ヲ任スルニハ約因アルヲ必要トセサルナリ又事ヲ仕遂ケタル後ニテ追認セシトキト雖モ尙ホ本人代人ノ關係ヲ生スルヲアリ以テ其契約ニアラサルコトヲ知ルニ足ラン又若シ本人ト代理人トノ間ニ有効ナル代理ノ契約ナキトキハ代理人ニ於テ委托ノ事柄ヲ履行セサルモ本人ヨリ代理人ニ向テ違約ノ訴ヲ起スヲ得サル可シ併シナカラ本人ト代理人間ニ有効ノ契約ナキモ代理人委托ノ事柄ヲ履行シタルトキハ本人其權利ヲ得其義務ヲ負擔スルニ於テハ本人代人ノ契約有効ナリシトキニ異ナラス

是ヨリ合意ハ真正完全且自由ナラサルヘカラサル事ヲ陳述スヘシ

合意ノ眞  
正完全且  
自由ヲ妨  
クル原因

凡ソ合意ハ申込ニ對スル承諾アリテ生スルモノナレハ其表面ニ顯レ  
タル所ヲ以テ見レハ何レノ場合ト雖モ一應ハ眞正完全ニシテ且ツ自  
由ナル合意ノアリタルモノト看做サ、ルヘカラズ申込及承諾ノ上ニ  
既ニ符合セサル所アル時ハ一應ノ合意モ生セサルナリ故ニ或格段ナ  
ル場合ニ於テ合意ナカリシカ又ハ完全ナラザリシカ若クハ自由ナラ  
ザリシカ爲メニ是等ノ事ヲ原因トシテ契約ヲ無効ナラシメ若クハ取  
消シ得ヘキ契約ト爲サントスルニハ其法律上是等ノ結果ヲ生スル所  
ノ原因ノ存在セルコトヲ證明セサルヘカラスコノ合意ノ眞正完全且  
自由ナルコトヲ妨クル所ノ原因ニ五種アリ即チ其五種トハ一ニ曰ク  
錯誤二ニ曰ク詐僞三ニ曰ク虛示四ニ曰ク強迫五ニ曰ク威壓是ナリ而  
シテ予ハ今別ニ是等ノ原因ヲ説明スルニ先チ右五者ハ如何ナル點ニ  
於テ似タル所アルカ又如何ナル點ニ於テ異ル所アルカヲ講究センカ

爲メニポロツク氏カ該原因ヲ類別セシ大意ヲ陳述スルヲ以テ予ハ大ニ其利益アルヲ信スルナリ即チポロツク氏ハ合意ノ眞正完全ニシテ且自由ナル事ヲ妨クル原因ヲ二種ニ大別セリ之ヲ左ニ示サン

(一) 不知 此不知ヲ區別シテ二種トス即(甲)結約對手ノ所爲ヨリ生シタルニ非ル不知是ヲ錯誤ト云フ(乙)結約對手ノ所爲ニヨリテ生シタル不知之ヲ又更ニ小別シテ二種トス爲ス(イ)結約者ノ所爲ニ惡意ノ存セシ時之ヲ詐僞ト云フ(ロ)惡意ナキ所爲アリタル時之ヲ虛示ト云フ以上錯誤詐僞及虛示ノ三種中ポロツク氏ハ錯誤ノミヲ以テ合意ノ眞正ナルコトヲ妨クル惟一ノ原因ト爲シ詐僞及虛示ヲ以テ合意ヲ不完全ナラシムル所ノ原因ト爲セリ

(二) 畏懼 此畏懼ナル者ハ意思ノ自由ナルヲ妨クル所ノモノヲ總稱ス更ニ之ヲ區別シテ二種ト爲ス(甲)結約對手ノ一方ノ者ノ所爲ヨリ

## 錯誤

生スル畏懼之ヲ強迫ト稱シ(乙)結約對手雙方ノ關係ヨリ生スル畏懼之ヲ威壓ト稱セリ而シテ此二者ハ合意ノ自由ヲ妨クル原因ト爲セリ右ハポロツク氏ノ分類セシモノニシテ頗ル其當ヲ得タルモノ、如シ以下講述スル所ト參照セハ諸君ハ同氏ノ分類ノ適切ナル所以ヲ知覺スルナラン

第一 錯誤 錯誤ノ一ニ付テ第一ニ注意スヘキハ合意ノ錯誤ト書面認方ノ錯誤トノ二區別アルコト是ナリ而シテ第二種ノ錯誤ニ付テハ今茲ニ詳述スルヲ要セス唯諸君ノ注意スヘキコトハ約束ノ事柄ヲ證書面ニ認ムル時ニ當リ書誤リタルトキハ法庭ニ訴ヘテ證書ヲ書換エルコトヲ許セリ又該誤書カ緊要ノ點ニアラスシテ之ヲ書換ユルニ及ハサル位ノモノナリシ時ハ該證書ニ基キテ訴ノ起リタル時ニ裁判官ニ於テ之カ解釋ヲ下シ自ラ正誤スルヲアリト云フ事ノミヲ了知スレ

ハ足レリ而シテ合意ノ錯誤ニ就テ之ヲ詳論スル前ニ又一ノ注意セサルヘカラスアルコトアリ即チ其錯誤トハ申込ト承諾上ニ既ニ明白ナルモノハ茲ニ所謂錯誤ニハアラサルナリ茲ニ錯誤ト云フハ書面上ノ事柄信實ナルカ如クニシテ其實合意アラサリシ場合ヲ稱スルナリ上來ニモ陳述セシカ如ク契約ニ第一必要ノ要素ハ合意ナリ然レトモ合意ヲ妨クル所ノ如何ナル錯誤ニテモアリシ時ハ必スシモ契約ハ成立セスト云フニハアラス今之ヲ單ニ理論上ヨリ論スルトキハ如何ナル錯誤ニテモアリシ時ハ真正完全ノ合意アリシトハ云フヘカラスレハ契約ハ成立セスト云ハサルヲ得ス然リト雖トモ如此ク理論ノミチ以テ契約ノ成否ヲ決セントスル時ハ錯誤ノ無カリシ對手ニ取リテハ非常ノ損害ヲ被ルコトアルヲ免レス故ニ便宜ヲ計リテ格段ナル種類ノ錯誤アルニ非レハ其他ノ錯誤アルモ決シテ契約ノ成立ヲ害セサルモノ

トナセリ換言スレハ錯誤ハ契約ノ成立ヲ害セサルヲ以テ通則トシ唯  
 格段ノ場合ニ契約ノ成立ヲ害スルモノトスルハ例外ナリ  
 錯誤ハ契約ノ成立ヲ害セサル通則ノ理由ハ抑或事柄ヲ約束セントシ  
 テ錯誤ノアリタル者ハ自ラ其損害ノ責ニ任セサルヘカラサルハ當然  
 ノコトニシテ自ラ錯誤ヲ爲シソノ曾テ錯誤アラサル人ニ向ヒ契約ノ  
 利益ヲ失ハシメ又ハ其損害ヲ被ムラシムルカ如キ道理ナシトスルニ  
 アリ然ルニ或格段ノ場合ニテハ錯誤ノアリタルカ爲メニ契約ノ成立  
 ナ左右スル例外ヲ設ケシ所以ノ者ハ其例外ノ場合ニテモ理ニ於テハ  
 自ラ誤リシ人ニ其損害ヲ負擔セシメサルヘカラサルハ勿論ナレトモ  
 重大ナル錯誤ノアリタル時ニテモ尙契約ハ成立シタル者トスルハ錯  
 誤ノアリタル人ニ過大ノ責ヲ負スノ憐ムヘキ所アレハナリ然レトモ  
 之ニ反シテ契約ノ對手双方ニ錯誤アリタルトキハ重大ナラサル錯誤

ニテモ契約ノ成立ヲ害スルモノトスヘキナリ何トナレハ其場合ニ於

ニテモ契約ノ成立ヲ害スルモノトスヘキナリ何トナレハ其場合ニ於テハ双方共ニ錯誤アリタルモノナレハ該契約ヲ無効トスルコソ契約者双方ノ利益ニシテ錯誤ハ法律上ノ結果ヲ生セストスルノ通則ヲ適用スルノ必要ナケレハナリ

或學者ハ錯誤ヲ二種ニ區別シテ一方ノ錯誤ト双方ノ錯誤トシ一方ノ錯誤ハ少モ合意ヲ害セサレトモ双方ノ錯誤ハ合意ノ真正ナルヲ害スルモノナリトセリ然レトモ合意ナル者ハ契約對手ノ意志ノ合同セルモノナレハ設ヒ錯誤ハ一方ニアリタルコセヨ又設ヒ双方ニアリタルモノニセヨ理論上ヨリ之ヲ見ルトキハ合意ヲ害スルニ於テハ毫モ異ナルコトナシ而シテ双方ニ普通ノ錯誤アリシ時ハ如何ナル場合ト雖モ契約ノ成立ヲ害シ又一方ノミノ錯誤ニテアリシナレハ格段ノ例外ノ場合ヲ除ク外ハ契約ノ成立ヲ害セスト區別セシハ全ク理論上ヨ

リ生セルモノニアラスシテ便宜ニ基キタル者ナリ  
 是ヨリ錯誤ノ爲メニ契約ノ成立ヲ害スル例外ノ場合ヲ講究セン凡ソ  
 法律上重大ノ錯誤トスル者アルキハ合意ノ眞正ナルコトヲ害シタルモ  
 ノトシテ契約ハ全ク成立セサルモノトスルナリ今其重大ナル錯誤ヲ  
 分チテ四種トナス

(一) 取引ノ性質ニ錯誤アリタル時 此場合ハ極メテ稀ニシテ多クハ  
 第三者ノ所爲ニ依リテ生スルモノトス若シ結約對手ノ錯誤ニ依リテ  
 生シタル時ハ詐欺ノ場合ニ入ルヘキモノナレハ茲ニ之ヲ論セス又對  
 手ノ所爲ニモ亦第三者ノ所爲ニモ基クニアラスシテ全ク自ラ錯誤ヲ  
 生セシ時ハ敢テ契約ノ成立ヲ害セサルナリ故ニ此種ノ錯誤ニシテ契  
 約ノ成立ヲ害スルニハ其錯誤第三者ノ所爲ニ基クテ要ス然レトモ此  
 實例トテモ甚稀少ナリ或場合ニ於テ文字ヲ讀ム能ハサル人カ第三者

ヨリ土地ノ借賃免除ノ證書ナリト聞キ捺印證書ヲ作爲セシニ該證書ハ凡テ土地ニ關スル權利ヲ放棄スルノ證書ナリシニ裁判所ハ該證書ハ無効ナリト判決セリ又或場合ニ於テ爲換手形ノ引受人カ手形所持人ニ向ヒ或保證ノ契約書ナレハ之ニ署名スヘシトテ該手形ニ裏書セシメタリキ而シテ該手形ハ第三者ニ移轉シ第三者ハ該手形所持人ノ引受人ニ欺レテ裏書セシモノナル事情ヲ知ラサリシ時ト雖トモ尙手形裏書人ハ其責ニ任セサルモノト判決セリ

(二) 結約對手ニ錯誤アリタル時ニ是ハ契約ノ對手ヲ誤リシ時ニノ結約ノ對手カ或格段ナル人ニ限レル時ナラサルヘカラス若シ結約ノ對手カ何人ニテモ可ナル場合ニハ此種ノ錯誤ハ起生セサルヘシ譬ヘハ物品ヲ現金ニテ賣買スル場合ノ如キハ代價サヘ拂ヘハ何人ニテモ賣買ヲ爲スヲ得ル者ニシテ敢テ買手ノ格段ナル人ヲ撰フノ必要ナケレ

ハ此種ノ錯誤ヲ生スルノ恐ナシト雖トモ掛賣賣買ノ場合ニ於テハ買手ノ如何ニヨリテ大ニソノ取引ニ影響スルモノニシテ買人ノ信用如何ヲ以テ物品ヲ賣買スル者ナレハ所謂結約對手ノ一定セルヲ要スル者ナリ又或格段ナル名人ニ書畫ヲ依頼セシニ其門人若クハ他ノ人カ書キタル時ニハ即結約者ノ對手ニ錯誤アリタルモノナレハ該契約ハ無効ニ歸スヘシ故ニ申込者ニ於テ自ラ撰擇セシ對手ト相違スル人ノ承諾シタル時ハ契約ハ決シテ成立セサルモノニソ予カ前ニ申込ハ移轉スヘカラスト論セシト同一理由ナリ尙茲ニ明瞭ナル證例ヲ舉示セシニ甲ナル者乙者ニ或物品ヲ賣却スル場合ニ於テ乙者ハ代理人ヲ以テ該物品ヲ領収セシコトヲ約セリ而ルニ丙者ハ甲乙間ノ約束ノアルコトヲ知リテ自ラ甲者ノ許ニ至リ甲者ノ代理人ナリト詐リ該物品ヲ領収セリ右ノ如キ場合ニ於テハ丙者ハ決シテ乙者ノ代理人ニアラサ

ルヲ以テ甲者ハ乙者ニ物品ヲ渡シ賣買契約ヲ履行セシトハ云フヘカ  
ラス又甲丙間ニ於テモ契約ハ成立セス唯丙者カ詐欺取財ヲ爲シタル  
モノナレハ刑法若クハ私犯法上ノ責任ヲ有スルノミニシテ契約上何  
タル効ヲモ生セサルナリ右ノ場合ハ惡意ノ存在セシ時ナレトモ惡意  
ノ存スルコトナクシテ對手ヲ誤リタル時ト雖トモ尙契約ハ成立セサ  
ルモノトセル例アリ即甲ヨリ乙商店ニ物品ヲ送達スヘキ注文ヲ爲セ  
リ而ルニ乙商店ニ於テハ甲ヨリ注文ヲ受ケタル前ニ既ニ乙商店並ニ  
其所有セル一切ノ物品ヲ丙ニ讓渡シ居リタリ斯ル狀實ハ曾テ甲者ハ  
了知セサリシ故ニ乙商店ニ注文セシモノト思考セリ然ルニ丙者ハ自  
己ノ商店ヘ注文セシモノト思考シテ其物品ヲ甲者ヘ回送シタルニ甲  
者ハ之ヲ消費シテ代價ヲ仕拂ハサルヲ以テ丙者ハ代價請求ノ訴ヲ起  
セシニ判官ハ甲ハ乙者ヨリ物品ヲ購買スルノ目的ニシテ丙者ヨリ買

フノ意思ニアラザリシヲ以テ甲丙間ニ賣買契約ハ成立セサルモノニ  
 シテ甲ニ代價ヲ拂フノ義務ナシト判決セリ此場合ニ於テ甲者若シ未  
 タ其物品ヲ費消セザリシナラハ物品ヲ返還セサルヘカラスナルノ義務  
 アリト雖トモ既ニ之ヲ消失セシ以上ハ凡テ丙者ノ損失ニ歸スル者ナ  
 リ今之ヲ皮相ヨリ觀察スルトキハ丙者ハ非常ノ不幸ニ遇遭セシモノ  
 如クナレトモ元來自己ニ賣買ヲ申込マサル人ニ向ヒ勿卒ニ物品ヲ  
 回送セシハ丙者自ラ招ク損害ト云ハサルヘカラス此場合ニハ甲ト乙  
 トノ間ニ曾テ貸借差引ノ關係アリタルナリ

(三) 契約ノ目的物ノ存在ニ關スル錯誤 此場合ハ結約者ノ雙方カ或  
 物品ノ存在セルコトヲ思量シテ結約セシニ其當時既ニ目的物ハ存在  
 セザリシ時ナリ而シテ結約對手ノ双方ニ於テ結約ノ當時ニ格段ナル  
 物品ノ存在スルコトヲ必要ナリト思考シ居リタル場合ナラサルヘカ

又ス此場合ハ多クハ賣買契約ノ時ニ生スルモノニシテ賣主ニ於テハ  
 物品ヲ賣却スルノ約束ヲ爲シ其目的物存在セリト思考セシニ該物品  
 ノ存在セサリシコトアリトモ買主ニ於テ賣主ノ物品カ存在セリヤ否  
 ナ思考セサル時ハ契約ヲ成ス者トス何トナレハ此場合ニアリテハ唯  
 賣主一方ノミノ錯誤ナレハナリ而シテ契約ハ成立スト雖トモ目的物  
 ナハ渡ス能ハサルモノナレハ賣主ハ違約損害要償ノ責ニ任セサルヘ  
 カラス

今結約者雙方カ目的物ノ存在セリト思考セル場合ニ二個ノ適切ナル  
 例ヲ左ニ舉示スヘシ

甲者自己ノ所有セル或穀物ヲ乙ニ賣テソコトヲ約セリ而ルニ該穀物  
 ハ結約當時ニハ或港ヨリ船舶ニ積載シテ運搬中途ナリキ而シテ其當  
 時ニ在リテ甲乙二者共ニ穀物ハ船中ニ存在セシ者ト思量セシナリト

事實ヲ認定シタリ然ルニ該穀物ハ航海中大ニ損傷シテ着港ノ時節ニハ必ス腐敗スルノ恐アルヲ以テ船主ハ航海中或港ニテ該穀物ヲ賣却セリ然レトモ甲乙二人ハ共ニ此事ヲ知ラスシテ結約セシモノナリ此場合ニハ契約ヲ生セシナシト判決セリ何トナレハ契約ノ當時既ニ目的物存在セサレハナリ因ニ曰ク船主ノ代理人ハ必要已ムヲ得サル場合ニハ其船舶ニ積載セル貨物ヲ賣却スルヲ得ルノ代理權ヲ有ス此事ハ商船法若クハ代理法ニテ知ラルヘシ

甲ナル者乙ヨリ丙者ノ年金ヲ購買セシニ甲乙二人カ結約セシ當時ニハ丙者ハ既ニ死去シ居レルモ甲乙兩人共ニ其事實ヲ知ラス偏ニ丙者ハ生存セルモノト思量シテ該契約ヲ爲セシモノナリ此場合ニ於テ年金賣買ノ契約ハ成立セサリシモノニシテ甲ノ其仕拂ヒタル金額ノ拂戻ヲ請求スルノ權利ヲ有スルモノナリト判決セリ

(四) 契約ノ目的物ノ種類ニ錯誤アリタル時。此場合ニ付テハ未タ一定ノ規則ナク多クハ賣買契約ノ場合ニ生スル者ニシテ賣買法ノ講義ニ於テ詳述スヘキモノナレハ茲ニハ其大意ヲ陳述スルヲ以テ足レリトス。即チ英米法ニ據レハ目的物ノ種類ニ錯誤アリタル時ハ契約ハ成立セサルモノトシ契約ノ目的物ノ品位ニ付テ錯誤アリタル時ハ格段ナル品位ノ目的物ニ付テ契約セシ場合即チ賣主カ格段ナル品位ノモノナリトノ保證又ハ條件ヲ附シタルニアラサレハ契約ノ成立ヲ害セサルモノトスルカ如シ以上ニ述ヘタルカ如クナルヲ以テ品位ト種類トノ區別甚必要ナリ而シテ其區別ハ理論上詳細ニハ立テ難シト雖トモ實際上ニ於テハ左程困難ナルモノニアラス。即其物品ニ付キテ普通人即チ十人並ノ人カ種類ノ異リタル者ト思考スルモノナル時ハ之ヲ別種類トシ唯品位ノ差アリトスルモノナル時ハ品位ノ差違アリトス

ルニ過キサルノミ  
 第四種類ノ錯誤アリタル爲メ契約ヲ成立セストスルハ多クハ錯誤ノ  
 點ヲ以テスルヨリモ寧ロ異種類ノ物ヲ引渡スモ賣主ノ義務ヲ盡シタ  
 ルモノニアラサレハ買主之ヲ受取り之カ代價ヲ仕拂ノ義務ナシトス  
 ルヲ以テ根據トスルカ如シ之ヲ換言スレハ錯誤ノ點ヲ以テ契約ヲ無  
 効トナスニアラスシテ賣主カ暗ニ買主ニ對シテ約シタル條件ヲ執行  
 セサルヲ以テ買主ニ義務ナシトスルニ歸スルカ如シ譬へハ米穀ヲ賣  
 却スルノ約束ヲ爲シ而ルニ腐敗シタル米穀ヲ引渡サントスルモ賣主  
 ノ義務ヲ盡シタル者ト云フヲ得サレハ買主ニ於テモ之ヲ受取り該代  
 價ヲ仕拂ノ義務ナキナリ  
 (五) 結約對手ノ一方カ一方ノ者ノ錯誤アリタルコトヲ知リタル時  
 例ヲ以テ此ヲ說示セシニ甲ナル者乙ト契約ヲ爲シ乙カ甲ノ約束ヲ誤

マリタルコトヲ甲者カ知リタル時ハ甲乙間ノ契約成立セストスルナ  
リ凡ソ是等ノ場合ハ錯誤ト稱スルヨリモ寧ロ詐僞ト稱スルコソ適當  
ナランカアンソソ氏ハ是等ノ場合ヲ説明スルニ單簡ナル例ヲ示シテ  
曰ク甲者乙者ノ店ニ至リテ陶器ヲ買ヘリ此場合ニ甲者ハ該陶器ハ九  
谷焼ナリト思惟シテ買ヒタルモノナレトモ其實ハ九谷焼ニアラサリ  
シナリ賣主乙ハ其九谷焼ニアラサルコトヲ知ルモ甲者ナル買主カ九  
谷焼ナリト思惟シテ買ヒタルコトハ毫モ之ヲ知ラサリシナリ如此キ場  
合ニハ完全ナル賣買契約ヲ生スヘシ又前例ノ場合ニ於テ設ヒ乙者ハ  
甲者カ九谷焼ノ陶器ナリト信シテ買ヒタリトノ意思ヲ確知セルモ尙  
賣買契約ハ成立スル者トス何トナレハ賣主ニ於テ買主カ自ラ錯誤セ  
ル事マテモ注意スルノ義務ナケレハナリ又甲ハ九谷焼ノ陶器ト思惟  
シ且乙者ニ於テ九谷焼ノ陶器トシテ之ヲ賣渡スノ意アリト信シタレ

トモ乙ハ其九谷焼ニアラサルコトヲ知リタル場合ニテモ甲ガ乙ニ於テ九谷焼トシテ賣渡スノ意アリト信セシコトヲ知ラサリシトキハ契約ヲ生スヘシ然ルニ甲者ハ該陶器ノ九谷焼ナルコト并ニ乙者ガ九谷焼トシテ賣ル者ト信シタルニ乙者ハ甲者ノ九谷焼ト思惟シタルヲ并ニ乙ニ於テ九谷焼トシテ賣ルモノト誤認シタルコトヲ知レル時ハ賣買契約ハ成立セサルモノトスルナリ

以上ハ錯誤ニ關スル規則ヲ講述シタル者ナリ而シテ予今諸君ノ記憶ニ便ナランカ爲メニ以上ノ事柄ヲ要言スレハ錯誤ハ法律上ノ結果ヲ生セサルヲ以テ通則ト爲スト雖トモ若結約者雙方ニ普通ノ錯誤アル時ニハ格別トシ且ツ雙方ニ普通ノ錯誤ニアラサルモ重大ナル錯誤ノ時ニハ法律上之ヲ例外ト爲シテ契約ノ成立ヲ害スル者トスルナリ而シテ錯誤ヨリシテ法律上ノ結果ヲ生スル時ニハ其結果ハ全ク契約ノ

詐僞

成立ヲ妨クモノナルコトヲ注意ス可シ  
錯誤ハ法律上如何ナル効果ヲ生スル乎ニ付テハ予既ニ陳述シタレハ  
是ヨリ詐僞ノ事ヲ論究スヘシ  
抑詐僞トハ人ヲ欺クノ意ナレトモ法律上所謂詐僞トハ普通ニ唱フル  
詐僞トハ其意味稍異リタルモノアリ普通ノ詐僞トハ惡意ヲ存シ不實  
ノ言ヲ以テ他人ヲ欺クヲ謂フモノニシテ設ヒ他人ノ之ニ欺ル、事ナ  
キモ矢張り詐僞ト稱スル者ノ如シ然レトモ法律上ノ詐僞トハ特ニ惡  
意ノ存有ヲ必要トセス又他人ノ之ニ欺ル、ノ事實ナキ時ハ決シテ詐  
僞トハナラサルナリ今法律上ノ詐僞ノ定義ヲ下シ更ニ之ヲ分析シテ  
説明スヘシ  
法律上ノ詐僞トハ其不實ナル事ヲ知り又ハ其實否如何ヲ顧スシテ疎  
忽ニ爲シタル事實ノ不實ナル表示ニシテ之ニ由リテ被害者ノ舉動ヲ

決セシムヘキ意思アリテ且現ニ被害者ヲシテ舉動ヲ決セシメタルモ  
 ノヲ謂フ此定義ヲ分析スレハ  
 一 詐偽ハ不實ノ表示ナリ表示トハ英語ニテ「レプレゼンテーション」  
 ト云フ表示ハ言語及舉動ヲ以テスルヲ得ヘキカ故ニ茲ニハ汎ク表示  
 トハ譯セシナリ然レトモ多クハ言語ヲ以テスルモノナレハ或ハ陳述  
 ト稱スルコトアルモ表示ト同義ノ者ト解セラレタシ  
 表示ハ單ニ事實ヲ指示サルコトハ異リ事實ヲ開示セサルコトハ  
 詐偽ニアラス譬ヘハ或場合ニ於テ煙草賣買ノ契約ヲナセシ時英國ト  
 合衆國トノ戦争カ平和ニ歸セシ事ヲ賣人ハ知ラサリキ賣人ニ於テハ  
 買人ニ向ヒ煙草ノ相場ニ影響スル新聞ハナカリシヤト問ヒシニ買人  
 ハ何事モ陳述セスシテ賣買契約ヲナセリ此場合ニ於テ戦争ノ如何ニ  
 依リテ煙草ノ相場ニ大ニ影響スルコトアリシトモ詐偽ニアラスト判

合ヨリ組合員へ利益配當ノ外ニ利得ヲ與フルノ結果ヲ來タス等ノコト往々之レアルナリ譬へハ組合員所有ノ家屋或ハ土地ヲ組合ニ於テ使用シ居リ營業中修繕ヲ加ヘタルトキノ如キハ若其儘ニ組合員へ返却スレハ組合員ハ組合へ物品ヲ貸與へテ却テ利益ヲ得ルニ當ルカ故ニ其修覆ノ爲メニ改良シタル分丈ケハ組合員ヨリ組合へ勘定ヲ立テ然シテ後ニ其家屋又ハ土地ヲ受取ラサル可カラズ今其判例ヲ舉ゲンニボムルドン訴バルクシ事件ニシテ其要領ハ組合ノ一人カ所有スル所ノ地所ヲ組合ノ營業上ニ使用中其組合ノ事務員ニ於テ此組合ハ或ル年間繼續スルモノト誤認シ該地内ニ井戸ヲ堀リタルニ該組合ハ固ト無期限ナリシヲ以テ俄然解散シ其地所ハ其所有人へ返却スルコトナリタレトモ井戸ヲ堀リタル爲メ地所ハ大ニ其價格ヲ増シタルカ故其改良シタル分丈ケハ代價ニ見積リ所有者ヨリ組合へ勘定ス可キ

組合員間  
ノ計算ニ  
利息ヲ付  
スルコト

モノナリト判定セラレタリ  
 組合ノ負債及ヒ損失ハ格別ノ證據ナキトキハ利益分配ト同シク凡テ  
 平等ニ負擔ス可キヲ以テ通則トスレトモ兼テ此事ニ付約束ヲ設ケ其  
 分擔ノ割前ヲ定メ置クヲ以テ商業上ノ習慣トズルナリ  
 組合營業ニ關シ最モ常ニ起ル所ノ問題ハ利息ノコトナリ夫レ利息ナ  
 ルモノハ契約ヲ待テ始メテ生スルモノナリヤ又ハ金圓貸借其他差引  
 勘定ニハ自然ニ利息ヲ附ス可キモノナリヤ未タ一定ノ說アルヲ見サ  
 レトモ英國習慣法ニ由レハ格段ナル商業上ノ習慣又ハ特約ナキ以上  
 ハ法律ハ利息ヲ附スルコトヲ許サ、ルモノト爲シ居ルナリ然レトモ  
 組合營業ニハ常ニ利息ヲ附スルヲ以テ商業上ノ慣例ト爲スモノ、如  
 シ故ニ組合營業ノ勘定ニ利息ヲ附スルヤ否ハ其組合固有ノ習慣營業  
 ノ仕來土地ノ習慣事業ノ目的等ニ由リ之レヲ決セサル可カラス例ニ

ハ組合員カ組合ヨリ金圓ヲ借入レ又ハ組合へ金圓ヲ貸附ゲタル時ノ

利益ノ分  
配ヲ論ス

定期ノ利  
益分配ハ  
豫算ヲ以  
テス

ハ組合員カ組合ヨリ金圓ヲ借入レ又ハ組合へ金圓ヲ貸附ケタル時ノ如キハ大概利息ヲ附スレトモ其取引ノ性質ニシテ貸借ノ名義ニ由ラズ唯一時ノ引負勘定等ノトキハ之レニ利息ヲ附セサルコトニ爲リ居ルナリ要スルニ金圓ノ出納ニシテ貸借ノ名義ヲ以テセサルモノニハ先ツ利息ヲ附ケサルヲ例トスルナリ

利益ノ分配ヲ論ス

前回ニモ論スル如ク各組合員ノ株又ハ權理ノ價ハ組合ヲ解散シ精算ヲ爲シタル上ニアラサレハ到底之レヲ確ムルコトヲ得サルモノナレハ利益分配ノ如キモ眞ノ分配ハ解散ノトキ現實ノ損益精算ヲ立テタルトキニアラサレハ之ヲ爲シ得サルナリ然レトモ商業上ノ習慣トシテ先ツ豫算ヲ以テ定期ニ利益分配ヲ爲スコトヲ常トセリ故ニ其分配ハ唯株ノ名義上ノ價額ニ準シテ之レヲ爲スモノニシテ未ダ以テ利益

組合法

分配ト爲スヲ得サルモノト知ル可シ組合解散損益精算ノトキニ於テ  
 ハ凡テ組合ノ有スル諸資産ヲ金額ニ引キ直シ其金額ノ中ヨリ諸負債  
 ナ支拂ヒ殘額ヲ利益トシテ分配スルモノナレトモ定期ノ豫算勘定ニ  
 於テハ唯其期間ノ収入金ヨリ諸負債及諸入費ヲ支拂ヒ其殘額ヲ以テ  
 利益分配ニ充ツルナリ配當金額ハ通例各組合員株高ノ名義上ノ價額  
 ニ照シ之ヲ割出スヲ以テ通例ノ習慣ト爲シ居ルナリ而シテ其配當金  
 額ヲ算出スルニハ先豫算ヲ立テ収入金ト支出金ノ割合ヲ見積リ其間  
 ニ於テ相當ノ金額ヲ定ムルナリ然レトモ組合ハ元ト會社ノ如ク其規  
 律ヲ嚴ニセサルカ故ニ利益分配ノ期日又ハ其額ノ如キモ其都度組合  
 員協議ノ上之レヲ決定スルカ故其期日金額モ會社又ハ商社ニ比スレ  
 ハ甚タ不規則ナルモノナリ例エハ會社商社ニ於テハ株主ハ利益分配  
 ノトキハ先ツ其分配ヲ受ケサル可カラサルモ組合ニ於テハ組合員中

配當額ハ  
多數ヲ以  
テ決ス

ニハ他ノ組合員カ利益ノ分配ヲ受クルモ己レハ己レノ都合ニ由リ之  
レヲ受ケス其儘組合ニ預ケ置等ノコト徃々之レアル可ク又會社商社  
ニ於テハ分配ノ期日ニ至ラサレハ其分配ヲ受クルヲ得サレトモ組合  
ニ於テハ組合員ノ都合ニ由リ其期日前ニ己レカ受ク可キ分配高ヲ見  
積リ之レヲ引出スコトヲモ得ヘキナリ  
利益分配ハ必ス金錢ニテ之レヲ爲サル可カラス金錢外ノ物件ヲ以  
テ利益分配ニ充ント強ユルコトヲ得サルナリ而シテ其配當額ヲ決定  
スルノ權ハ大概組合員多數ノ決議ニ在ルナリ商社又ハ會社ノ場合ニ  
於テハ支配人カ株式ノ相場ヲ上下セシメント試ミ時ニ或ハ非常ニ割  
合ノ好キ利益分配ヲ廣告スルコトアリ又ハ非常ニ抵キ割合ノ分配ヲ  
ナスコト徃々之レアリ此等ハ支配人等カ私利ヲ博セントノ詐欺手  
段ニ出ルモノ多ケレハ如斯キ場合ニ於テハ裁判所ハ其分配ヲ差留ム

ルコトアル可キナリ  
組合ニ於テハ各自合同ノ決議ニ出テタル上ハ如何ニ高額ナル利益ノ分配ヲ爲スモ更ニ差支ナキノミナラス組合ヲ解散スルモ亦妨ナキモ商社又ハ會社ニ於テハ夫レ々々ノ規律アルノミナラス其株主多數ナレハ其一致ヲ得ルコト難ク到底相當ノ金額ヲ分配スルヨリ外途ナカ  
ル可キナリ  
利益ノ分配ハ利益アツテ始メテ起ルモノ故先ツ其利益ノ何物タルヲ定メサル可カラス即チ利益トハ収入金ノ支出金ニ超過シタルモノニ外ナラサレハ若シ支出金カ収入金ニ超過スルカ又ハ相同シキ場合ニ於テハ利益ノ分配ス可キモノナカル可シ然シテ天災又ハ其他ノコトヨリ非常ノ損失ヲ來シタルトキハ數年間ノ収入金ヲ以テ之レニ充ツルモ或ハ引キ足ラサルコトアル可ク爲メニ數年間利益ノ分配ナシニ

Ordinary Expenses.  
Extraordinary Expenses.

組合ノ計  
算ヲ論ス

打過ルコトアラン故コ斯ノ如キコトナカラシムル爲メ支出金即チ支拂金ヲ二箇ニ區別シ第一種ヲ通常ノ支出第二種ヲ非常ノ支出トナス第一種ハ營業上常ニ支出スル所ノ通常入費ニシテ之レハ收入金ヨリ支拂ヲ爲シ第二種ハ火災ニカ、リ家屋ノ消失シタル爲メ其建築ニ要スル入費ノ如キモノニシテ之レハ收入金ヨリ直チニ支拂ハズ或ハ資本金又ハ積立金或ハ臨時ノ借入金等ヨリシテ之レヲ支拂ヒ置キ而シテ漸次每期ノ收入金ヨリ數度ニ理メ合ハスルコト、爲スナリ扱テ如何ナルモノヲ以テ通常ノ支出ト爲シ如何ナルモノヲ以テ非常ノ支出ト爲スカハ其事ニ付臨時組合員ノ多數決議ヲ以テ定ムルコトヲ得ヘキナリ

第貳拾貳回

組合ノ計算ヲ論ス

組合法

組合ノ計算法ハ通例ノ簿記術ニ從ヒ之レヲ爲スヲ以テ習慣ト爲スモ  
 ノナレハ今此ニ深ク説明スルヲ要セス唯決算ノ方法ニ付一言センニ  
 損失ハ先利益ヨリ償却シ若シ利益ヲ以テ償却ニ充ツルモ足ラサルト  
 キハ資本ヲ以テ之レニ充テ最後ニ各組合員ノ資産ニ及フ可キナリ今  
 組合カ諸負債ヲ支拂フ方法ニ付順序ヲ立ツレハ則チ左ノ順序ニ從ヒ  
 其支拂ヲ爲ス可キナリ

第一 組合ヨリ組合員ニアラサル者ニ對スル負債

第二 組合ヨリ組合員ニ對スル負債

第三 組合員ノ出シタル資本金

第四 第一第二第三ヲ拂ヒ了リテ剩餘アルトキニハ利益金トシ

テ之ヲ各組合員ニ平等ニ配當ス可シ

但シ配當額ニ付契約アルトキハ此限ニアラス

Ordinary Expenses  
 Extraordinary Expenses

尙此ニ一言ス可キコトアリ前ニ掲グル順序ニ從ヒ第一ノ負債即チ社外ニ對セル負債ヲ支拂フタル後其殘額第二ノ負債即チ各組員ニ對スル負債ヲ支拂フ能ハサルトキハ其不足分ハ各組員ノ損失トナサハルヘカラス然シテ此場合ニ於テ特別ノ證據ナケレハ各組員ハ一様ニ其損失ヲ分擔セサル可カラス例エハ第一ノ負債ヲ支拂フタル殘額五百圓アリトセンニ各組員ヨリ組合ヘノ貸金ハ左ノ比例ノ如クナリト假定セハ

甲	= 3	0	0
乙	= 1	0	0
丙	= 2	0	0
丁	= 4	0	0
戊	= 0		

此場合ニ於テ組合ガ各員ヨリ負フ所ノ負債ノ金額ハ一千圓ナリ然ルニ此ニ殘額五百圓アルカ故ニ其殘額ヲ之レヨリ引去レハ全ク五百圓

組合法

二百二十一

ハ組合カ各員ニ對スル負債ニシテ各自ノ損失ニ歸ス可キモノナリ此  
 ニ各自ノ出金高ニ比例シテ其平等ヲ得ントセハ此五百圓ノ損失ヲ五  
 人ニテ平等ニ百圓ツ、分擔セサル可カラズ然ルニ戊ハ未ダ一錢ヲモ  
 分擔シ居ラサルカ故ニ更ニ此ニ百圓ヲ差出ス可ク而シテ此百圓ヲ殘  
 額ノ五百圓ニ加ヘ六百圓ト爲シ之ヲ各自ノ貸金高ニ應シテ分配スレ  
 ハ其損失ヲ一樣ニ受クル譯ニ立チ至ルナリ即チ右六百圓ノ中丁ニ三  
 百圓ヲ與ヘ丙ニ百圓ヲ與ヘ甲ニ二百圓ヲ與フ可キナリ  
 組合員ハ帳簿ノ保存及ヒ檢閲ノ權利義務ヲ互ニ有スルモノニシテ各  
 組合員ハ何時ニテモ組合ノ帳簿ヲ檢閲スルノ權アリ又其帳簿ノ管理  
 者ハ必ス之レニ應ス可キ義務アレトモ檢閲ノ爲メ事務ニ妨害ヲ爲サ  
 ルコトヲ要スルナリ  
 組合及ヒ商社ノ規約書ヲ論ス

先ツ規約  
書ノコト  
ヲ論ス

組合規約  
ハ主要ノ  
點ヲ定ル  
ニ在リ

先ツ組合ノ規約書ノコトヨリ論セシニ凡テ組合員ノ間ニ於テ互ノ權利義務ヲ決スルハ必ス其間ニ成リ立ツ所ノ規約書ニ依ル可キモノニシテ其規約書ヲ解釋スルハ普通ノ解釋法ニ由リ之レヲ爲スモノナリ然レトモ組合規約書ヲ論スルニハ主トシテ左ノ諸項ニ注意セサル可カラス

第一項

組合規約ハ必スシモ組合員相互ノ間ニ起ル諸般ノ權利義務ノ規定ヲ網羅シ居ルモノト見做ス可キモノニアラス又必スシモ組合規約書ハ一切ノ權利義務ヲ悉ク定ムル趣旨ニテ設ケタルモノト看做スヘカラス只其重要ナルモノヲ定ムルニ止リ他ハ之カ明記ヲ爲サス法理ノ解釋ニ放任シ置クモノナリ故ニ組合規約書ニ明記ナキ權利義務ニ付爭論生スルトキハ從來ノ慣行營業ノ目的

組合法

二百二十三

等ニ由リ相當ノ判斷ヲ下シ果シテ規約書全体ノ趣旨ニ  
 抵觸セサルヤ否ヲ定ムルナリ夫ノ組合員一人ノ所爲ノ  
 タメニ組合ヲ解散ス可キ時即チ組合員ノ一人カ規約ニ  
 背キタルコトアル場合ニ於テハ他ノ組合員ハ之レヲ理  
 由トシテ組合ヲ解散ス可キモノナリヤ否ノ爭論アル如  
 キ場合ニ於テハ獨リ組合規約ノ條項ノミニ據ラス組合  
 契約全体ノ上ヨリシテ生スル各組合員ノ權利義務ヲモ  
 參照シテ之ヲ決定セサル可カラズ

第二項

抑モ組合カ其營業ノ目的ヲ達セントスルコトハ最モ組  
 合ニ取り必要ナル事柄ナルカ故ニ規約書ノ條項ハ可成  
 組合ノ目的ヲ達スル方ニ之ヲ解釋シ勉メテ組合ノ目的  
 ヲ破ル方ニ之レヲ解釋セサランコトヲ要ス故ニ縱令何

的組合ノ目

決

合



組合規約  
ハ詐欺ノ  
器械トナ  
シルコトナ

第三項

モ總テ他へ賣却ス可キコトヲ決定シタリ後此多數者ノ  
 決定ハ不同意ナル小數ノ持主ヲモ檢束シ強テ新聞社ヲ  
 瓦解シ株券ヲ賣却セシムルコトヲ得ルヤ否ノ争起リタ  
 ルニ裁判所ハ多數者ハ此議決ヲ爲ス權ナク又各株主ヨ  
 リ委任シタル委員ハ斯ノ如キ總會議ノ議決ヲ不同意ノ  
 少數者ニ對シ執行スルヲ得サルモノト判定セリ  
 組合規約ノ條項ハ其字句ノ如何ナルニ拘ハラヌ可成一  
 ノ組合員カ他ノ組合員ヲ欺罔スル如キ詐欺ノ器械ニ爲  
 ラサル様ニ之レヲ解釋セサル可カラヌ例へハ或ル組合  
 ニ於テ半年毎ニ計算ヲ爲シ一旦計算調ヒタル後ハ他日  
 之レヲ非難スルヲ得サル旨ヲ規約書ニ記載シ置クヲ習  
 慣トセリ此場合ニ於テ若シ組合員ノ一人カ不正ノ計算

書ニ他ノ組合員ヲ欺キ調印ヲ爲サシメ而シテ後ニ計算  
調了シタル以上ハ規約書ニ由リ後ヲ其當否ヲ爭フ可カ  
ラス抔ト主張シテ己レノ詐欺ヲ組合規約ニ由リ強テ遂  
ケント爲ス如キコトヲ防カサル可カラズ故ニ此ノ如キ  
組合ニ於テハ其規約書ノ規定ニ拘ハラス欺カレタル組  
合員ハ尙其計算書ノ當否ヲ爭フコトヲ得ヘキナリ又組  
合ニ於テハ計算ハ年毎又ハ半年毎ニ之ヲ爲シ會計年度  
ノ間ニ組合員中死去スル者アルトキハ前會計年度ノ計  
算ヲ以テ其相續人へ利益ヲ分配シ敢テ前會計年度ヨリ  
死去ニ至ルマテノ間ニ生シタル利潤ヲ別ニ計算シテ死  
者ノ相續人ニ分配セサル可シ云々ト規定シタルコト往  
々之レアリ然レトモ若シ此ノ如キ場合ニ於テ組合ハ數



動產委託法

法學士 奥田義人講義

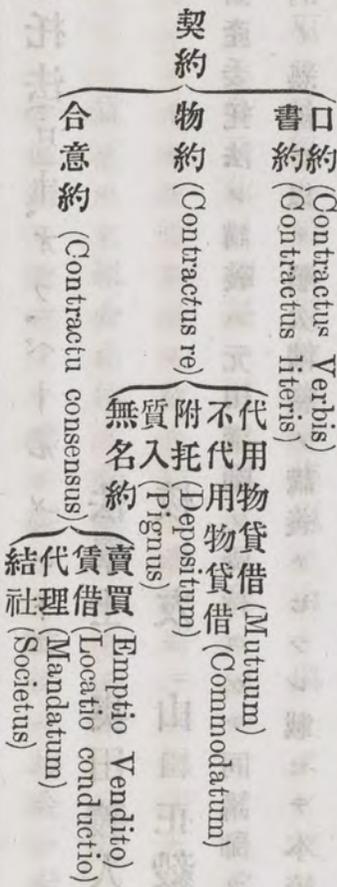
校友 山口正毅編輯

動產委託法ノ講義ハ元田講師ノ受持ニシテ同講師カ例ノ實際  
 的ノ熟練ヲ以テ順次精密ノ講義ヲセラレ載セテ本校講義錄ニ  
 編入シ在ルガ故ニ諸君ハ皆十能ク該法ノ何タルコトヲ知ルヲ得ラレ  
 タルヘキハ予ノ信シテ疑ハサル所ナレトモ本校教科ノ内ニテモ  
 委託法ノ如キハ重要ナルモノ、一ナレハ反覆講義スルヲ要ス  
 ルトノ事ニテ更ニ重テ予カ講義スルコト、ハナレリ然レトモ  
 學年ノ殘期漸ク切迫ノ折柄故到底精密ノ講義ハ之レヲナスハ  
 得サルベシ諸君之レヲ諒セヨ

第一編 總論

第一章 動產委託ノ性質

今茲ニ動產委託ノ性質ヲ講スルニ當テ先ツ諸君ニ注意ヲ促スヘキ一事アリ抑モ動產委託ノコトタル其性質ヨリ之レヲ云ヘハ一種ノ契約タルニ過キカルヲ以テ契約中ニ之レヲ論スルモ敢テ差障ナキ譯ナレドモ英法ニテハ別ニ一種ノ題目トナシ居レリ蓋シ別ニ理由アルニアラズト雖モ其基ヒスル所ハ羅馬法ニ起レルコト明カナルコト是レナリ誰人モ既ニ了知セルカ如ク羅馬法ニ於テハ契約ヲ左ノ如ク類別セリ



右各種ノ契約中最モ通常ニシテ最モ早ク發達シタルモノナリ口約トス  
 而シテ其口約ハ如何ナル方法ヲ以テ契約ノ効ヲ生セシメタリヤト云  
 フニ結約者雙方カ一定ノ言語ヲ用テ問答スルノ方式ノ定マリタルモ  
 ノアリテ其方式ニ從ヒ問答シタル後初メテ其効ヲ生セシムルコトヲ  
 得タルナリ故ニ口約ヲ稱シテ問答約トモ云ヘリ書約トハ金錢支拂ヒ  
 ノ契約ニシテ貸借ノ事柄ヲ帳簿ニ記載スルヲ其式トナセルモノナ云  
 ヒ物約トハ物品ノ授受ニ依リ契約ノ効ヲ生スルモノニシテ其義務ハ  
 受取リタル物品ヲ返還スルニ在リ又合意約トハ結約者雙方ノ合意ノ  
 ミアレハ直チニ契約ノ効ヲ生スルモノナ云フナリ英ノ動產委托法ハ  
 即チ羅馬法ノ物約ニ起源シタルモノナレト兩者稍々異ナル所アリテ  
 羅馬法物約中ノ代用物貸借契約及ヒ無名約ノ如キハ英ノ動產委托法  
 ニ於テハ之レヲ含蓄セスシテ却テ羅馬法合意約中ノ貸借約ノ如キハ

動產委託  
ノ定義

^Bailor.  
=Bailee.

之レヲ委託法中ニ論スル等彼是レ互ニ矛盾セルモノ、如シ之レニ因  
 テ之レヲ觀レハ動產委託法ハ其基源羅馬法ニ在ルモ其趣向ニ至テハ  
 稍々異ナル所アリト謂ツヘキナリ然ラハ則チ英法ニ所謂動產委託ト  
 ハ何ソヤト云フニ此問ニ對スル答案ニ就テハ學者中種々論議多クシ  
 テ未タ以テ確然一定ノ答案ヲ得スト雖モ要スルニ動產委託即チ「ベ  
 ルメント」トハ或ル特殊ノ目的ヲ以テ物品ヲ保持シ其目的ヲ終ヘタル  
 事又ハ約束期限ノ到達シタル時之レヲ返還スルカ若クハ第三者ニ授  
 了スベキ明約或ハ黙約ニ因リ一方ノ對手ヨリ他ノ一方ニ該物品ヲ引  
 渡スコトヲ云フニ外ナラサルナリ而シテ其引渡チナス方ノ對手ヲ委  
 托者ト稱シ其引渡チ受クル方ノ對手ヲ受托者ト稱ス例ヘハ余カ所有  
 セル時計ヲ修繕セシムル爲メ之レヲ某時計師ニ引渡シタリトセンカ  
 余ハ即チ委託者ニシテ某時計師ハ即チ受托者ナルヘシ而シテ其引渡

ノ目的ハ時計ノ修繕ニ在リテ受托者ナル時計師ハ其修繕ヲ終ヘ次第  
之レヲ余ニ返還スルノ黙約ヲナシタルモノナリ又余ハ書籍若干ヲ積  
濱ナル友人某ニ送ラント欲シ之レカ運送ノコトヲ通運會社ニ托シテ  
該書籍ヲ引渡シタリトセンカ余ハ即チ受托者ニシテ通運會社ハ即チ  
受托者ナルヘシ而シテ其引渡ノ目的ハ書籍ノ運送ニ在リテ受托者ナ  
ル通運會社ハ其運送ヲ終ヘ次第之レヲ積濱ナル友人某即チ第三者ニ  
授了スヘキ明約ヲナシタルモノナリ又余ハ友人某ヨリ三ヶ月間ノ約束ヲ  
以テ金若干圓ヲ借用シ之レカ返濟ノ義務ヲ堅固ナラシムル爲メ余ノ所  
有品ヲ抵當トシテ某ヘ附托シタリトセンカ余ハ同シク受托者ニシテ友  
人某ハ受托者ナルヘシ故ニ余ニ於テ約束期限通り其負債ヲ償却シタル  
キハ即チ某ハ其抵當品ヲ余ニ返還スルノ黙約ヲナシタルモノナリト  
ス此等ノ諸例皆ナ是レ動產委托コアラサルハナシ時ニ或ハ引渡ノ目

動產委託  
ノ四要素

的ヲ達スルノ前受托者ニ於テ其物品ヲ保持スヘキ權ヲ失ヒ直チニ之  
レヲ委託者ニ返還スルノ義務ヲ生スルコトナシトセスト雖モソハ委  
托者ヨリ受托者ニ該物品ヲ引渡シタル元來ノ目的ニアラサレハ斯ル  
場合ノ事柄ヲハ動產委託ノ定義中ニ含蓄セシムルヲ要セサルナリ  
夫レ然リ而シテ右陳述シタル所ノ動產委託ノ定義及ヒ二三ノ引例等  
ニ徴シテ之レヲ見ルモ動產委託ニハ左ノ四要素アルコト甚タ明カナ  
ルヘシ

- 一、引渡アル事
- 二、其引渡ハ動產ノ引渡タル事
- 三、特殊ノ目的アル事
- 四、其目的ヲ終ヘタルハ又ハ約束期限ノ到達シタルハ其寄托品  
ヲ委託者ニ返還スルカ若クハ第三者ニ授了スヘキ明約或ハ默

増島氏演説

左ノ一編ハ横濱居留和蘭人へメルトヨリ印刷局事務長一川研三ニ  
 係ル上告破毀ノ件ニ付再審ヲ受クル爲メ大坂控訴院へ出頭ニ際シ  
 同府組合代言人有志者ヨリ出張ノ法學士代言人本校講師増島六一  
 郎及岡山兼吉兩氏ト共ニ親睦會ヲ開キタル節増島講師ハ右有志者  
 ニ望マレ一場ノ演説アリタルカ其言ヘル所法律學ノ沿革及法律ノ  
 事ヲ業トスルモノ、心得ヘキコトナキニアラサレハ今其全文ヲ得  
 テ之ヲ掲ケ校外生諸君ノ參考ニ供スト云爾

今日ハ皆様カ私共ノ爲メニ御催ノ此末席ニ加フルノ幸ヲ得テ難有既  
 ニ皆様ニ御紹介ヲ受ケタル際一々御厚意ヲ謝ス可キ筈ナリシモ其禮  
 チ盡サス旁以テ善積様ノ御求メニ應シ聊カ一言ヲ呈スルノ前皆様御  
 一統へ此御催ノ御禮ヲ申上ケ置キマス元來代言人ノ職タル平生事實

ト理論ノ二ツヲ取扱ヒ片苦シキコトバカリニ從事シ居リマヌルコヘ  
會食ノ節ニハ片クルシキ事ヲ話サヌカツマリ會食ノ目的ヲ達シ折角  
食ヒタル御馳走モ爲メニ消化ヲ傷クルノ憂ナシト存シマス故ニ私ハ  
在英中代理人ニ關シ目撃シタル所ニヨリ吾國後來代理人ノ改良ニ關  
スル考案ヲ述フヘキ様ノ御懇望アルモ是ヲ述ヘ様トモ思ヒマセ又且  
私ノ及フ所テ御座リマセ又東京ニ於テ同組合會長ノ任ニ當リタルト  
キ失敗シタルノ私ナレハ私カ講スル策ノ日本代理人改良ニ適スル筈  
ナシト考ヘマヌレハ旁以テ失禮乍ラ之ニ應スルコトハ出來マセ又先  
ツ英吉利代理人ノ一ナル「ばりすと」カ其法學院ニ會シ會食スルヲ以  
テ其免許ヲ得ルノ資格ヲ付クルニ必要ノコト、スル事ト此今夕ノ會  
食ト偶、比較スルニヨリ始メマシテ法律學ノ事ニ關シ只今心ニ浮ヒタ  
ル事ヲ述ヘマシヨウ右會食ノ起源ヲ尋ヌルニ昔ハ代言ノ免許ヲ得ル

ニ試験ヲ用ヒス此業ニ從事シタルモノハ封建ノ制其極ニ達シ長子相續ノ法其力ヲ逞フシタルノ末二男三男ノ子孫ハ家産ノ一塊タモ受クルコトカ出來ス或ハ寺院ニ入りテ僧侶トナリ或ハ法廷ニ出入シテ法律ノ事ヲ執リ其生ヲ營ミ其身ヲ立ツルコト、ナリタルヨリ起リ皆位置アル人ノ子孫ニテ所謂士人テ御座リマス法廷ハ獨リ倫敦ニアリマスルヲ以テ地方ヨリ筈ヲ負フテ同府ニ遊學スルノ法律學士アリ開廷ノ期ニ際シ地方ヨリ出張スルノ法律家アリテ皆法學院ニ來テ止宿致シマスルヨリシテ人皆晩食ヲ共ニシ依テ以テ相親睦シ相矯正スルノ風ヲ爲シマシテ終ニ會食スルハ法律家同業ノ務トナリ法律家全体ヲ制御スルハ只會食シテ教ヲ示シ風ヲ正スノ外他ニ途ナキト考ヘマシタ所ヨリ始リタルモノト考ヘラレマス今日ニモ此風カ残り法律ノ業ニ從事スルノ免許資格ヲ得ヨウト思ヘハ必ス成規ノ度數丈會食ヲ要

シ又會食或ル度數ニ達シマセヌケレハ學術ノ試験ヲモ受クルコトガ  
 出來ナイト云規則デ御座リマス英吉利法律家ノ會食ヲ利用シタルコ  
 トハ此通りデ御座リマスレハ其今日マテ存シ居ルト云フモ尤ノコト  
 テアリマス此ノ晚食會ニ較フルニ今夕ノ御催ハ亦樂シキコトテハ御  
 座リマセヌカ既ニ申上タル通り私ハ片クルシキ御話ヲセヌ考ニテ先  
 刻吾學友岡山氏ノ話爰ニ及ハントシタルヲ戒メマシタル次第ナルコ  
 トハ皆様ノ御耳ニ留リマシタルコトテ御座リマシタロウ  
 元來代言人ノ業ハ所謂「サムライ」仕事テアリマシテ理ニヨリ人ヲ助ク  
 ルコソ其本意テ御座リマス去レハ英吉利ニテハ既ニ申シタル勢ヨリ  
 シテ士人トシテ生レタル「ばりす」とるハ代言料ヲ法廷ニ請求スルノ權  
 利ヲ有セストハ其裁判例ニ現ハレ、所テアリマス併シ乍ラスクノ如  
 キ爭チ生スルハ稀ノコトニテ「ばりす」とる「チ」シテ其業ヲ務メ併セテ其

生テ營マシメ圓滑ニ其報酬ヲ得セシムルノ媒ヲ爲スモノハ「そりしと  
る」トテ「ばりすとる」ノ下ニ位シ依頼人ノ紹介スル等ノコトヲ司トル代  
言人カアリマスルヲ以テ今日ニ至リテハ亦其爭ナク且無報酬ニ代言  
ノ業ヲ執ルカ如キ質僕ナル法律家ハ御座リマセ又併シ代言人ノ士人  
ナルコトニハ毫モ變リハアリマセ又抑代言人ハ訴訟ヲ鎮制スルモノ  
ニテ之ヲ煽動スルモノデハアリマセ又代言人ハ其何タルニ關セス王  
公將相ノ行爲ニ至ルマテモ其跡ニ就キ法律ノ點ヨリシテ之ヲ是非論  
究スルモノテアリマスレハ其行爲ヲ助クル爲メニ奔走致スモノテハ  
御座リマセ又是レ法律家ト政治家ノ異ナル所テアリマシテ法律家ハ  
常ニ政治家ノ上ニ位シ其行爲犯罪ヲ彈劾スルノ位置ヲ有スルモノ  
テ御座リマス斯ク法律家ハ理ニ依テ起テ政治家ハ情ニ依テ動クモノ  
テアリマスレハ二者孰レカ尊キカハ自ラ明ラカナルコトテアリマシ

ヲウ夫レ故ニ英吉利ばりすとるハ其社會中高尙ノ地位ヲ占メ王公將  
 相モ殊ニ之ヲ厚待スル所以ノ者ハ蓋シ其位置ノ然ルカ故ノミデハア  
 リマセヌ其士人タルニ由ル譯テ御座リマス  
 世界廣シト雖モ其開闢遠シト雖モ法律ノ制度ヲ備フルノ大國ヲ舉ケ  
 マスレハ歐洲各國支那印度及其各父祖ノ國ヨリ携ヘ來リタル南北亞  
 米利加亞弗利加及（かうすとれりや）外地ニアルコトヲ知リマセヌ蓋  
 シ法律ノ源ハ遠ク草昧ノ世ニ出テ其進ンテ所謂一ノ法律トモ名ツク  
 ヘキ制度ノ体ヲ爲スニ至リマスルハ人文稍進ミタル國テナケレハ無  
 キコトテアリマス中ニ就キ右制度應用ノ道進ミ一種ノ學派ヲ作り眞  
 ニ法律ノ精神ヲ存シ其威嚴ヲ備フルニ至リマシタルモノハ只羅馬法  
 律英吉利法律ノ二テアリマスレハ法律學ハ羅馬派英吉利派ノ二アル  
 ノミト云フテモ宜シク御座リマシヨウ而シテ右二派ノ原則ハ其國權

チ尊ヒ其人權ヲ保タシムルノ點ニアリマス昔羅馬ノ旺盛ナルモ其人  
文未タ進マサルノ時ニ當テ其法律ハ羅馬貴族ノ爲メ又ハ羅馬人ノ爲  
メニ設ケタル者テアリマスレハ羅馬府ニ來リタルノ外國人ハ其保護  
ヲ得ルノ限ニアラストテ法律上著シク尊卑内外ノ區別ヲ立テマシタ  
然レトモ世運進ミ内外交際ノ止ムヘカラサルニ至リ理ニ依リ事ヲ執  
ルノ羅馬法律家ハ自ラ悟トル所カアリマシテ今日萬國公法ノ始ヲナ  
シタル夫ノ「じやすせんしわむ」ナル法理ヲ作リマシタ是レ即チ自ラ悟  
ツテ自ラ與ヘタルモノテ御座リマス英吉利法律モ亦同シコトデアリ  
マシテ其法律中今日殊ニ勢力ヲ有スル「スウィー」ハ尙ホ同一ノ  
時勢ニ制セラレテ起リタル者デアリマス要スルニ右ニ法律ノ内外ヲ  
分タス尊卑ヲ論セス公正事ヲ處スルノ法律ヲ設クルニ至リマシタル  
ハ其法律家ノ自然ト時ヲ見理ヲ察シテ作りタルノテ御座リマス此事

タル唯法律學ノ理論ニ長シ之ヲ法上ニ掲ケタル丈テハ無ク之ヲ實地  
 ニ行フテ公明正大天地ニ愧ツルコトナカリシノ事蹟ハ歴史ニ徴シテ  
 炤カニシテ裁判録ヲ繙キテ其例ヲ舉ケマスレハ英國十八世期ノ終リ  
 人皆奴隸制度ノ暴戾ナルヲ悟リ其制ヲ刈除スルニ汲々タリシカ亞米利  
 加ニ住スル英吉利豪家ノ黑人奴隸（サマロセツト）其主人ノ地内ヨリ脱  
 走シ英國ニ奔リ其主人ハ跡ヲ追テ來リ裁判所ニ訴ヘ右奴隸ニ對シ其  
 所有權ヲ恢復セントシマシタカ判事ハ法律ヲ執リテ動カス元來英國  
 民ハ不羈自由ノ民ナレハ一度我國ノ土地ヲ履ムモノハ皆自由ノ民ナ  
 リトテ（サマロセツト）ノ自由ヲ保護シタルコト、僅カニ昨年起リタル  
 「のるまんとん」件ニテ我政府ハ英人「どれーき」ノ罪ヲ英吉利法廷ニ告訴  
 セシニ判事及陪審官ハ一モ同胞相憐ムノ痴情ニ牽カサル、ナク適ハ  
 レ其罪ヲ判斷セリ是ヲ以テ考ヘテモ古今英吉利法廷ノ尊卑内外ヲ區

別ヒス誰ニテモ其手續ヲ守リテ救正ヲ乞フモノニハ之ヲ拒ムノ限リ  
ニアラサルコトハ能ク知レマシヨウ羅馬法律中ヨリ同一ノ例ヲ舉ケ  
ヨウト思ヘハ如何程テモアリマスケレトモ之ヲ省キマス我邦駐在米  
國公使ノ曾テ言ヒマシタ事カアリマスガ凡ソ法律ノ學問ナキ正直一  
杯ノ法律家ヨリハ正直ナラサルモ學問アル法律家アル方カ宜シヒト  
其意ヲ考ヘマスニ凡ソ法律家ハ政府ノ頒布シタル法律規則ノ文面ヲ  
以テ其何タルヲ論定シ其論斷ヲ料理鹽梅スルニ豫テ法律學ヲ研窮シ  
テ得タル所ノ學識ト養フタル所ノ勢力ヲ以テスルモノナレハ元來人  
ノ性ハ善ナルモノナリト言フ聖哲ノ說ノ方カ正シキモノテアルカラ  
如何ニ惡人ノ法律家テモ其養フタル第二ノ性ニハ背クコトカ出來ス  
ツマリ法律ノ外ヘ引張リ出サレテトモ正直十分カラヌ腹ノナイ法律  
家ハトマリ所カ無フテ或ハ權力ニ制セラレ或ハ情慾ニ引カレ或ハ利

慾ニ迷ハサレテツマリ訴訟人カ何邊<sup>ド</sup>ヲ頼テ裁判ヲ乞フカ別ラス困マ  
 ラチハナラヌト云フコトテアリマシヨウ  
 凡ソ文明開化ノ進歩ノ程度如何ヲ見ヨウト思ヘハ其國政府ノ司法權  
 最上ノ位置ニアリテ立法者ノ憲法外ニ出テ行政吏ノ職制ヲ越ヘテ事  
 ナ行フモノヲ裁斷シ尊卑公私内外ノ區別ヲ問フコト無ク平等均一公  
 明正大法律ヲ執リテ動カス其威嚴以テ王公ヨリ庶人ニ至ルマテ其所  
 ナ得セシムルニ止リ一モ遺スコト無ク一モ假借スルコト無キノ勢ヲ  
 保ツノ所コソ是レ最上文明開化ノ邦ナルコトハ我邦ノ人皆知ル所テ  
 御座リマシテ條約改正ニモ裁判權ノ恢復ヲ先務トセラル、ハ尤モ至  
 極ニテ御互ニ其成就センコトヲ禱リマスガ能ク考ヘテ見マスルト治  
 外法權ハ取回シタモノ、如何ナル法律ニテ外國ノ御客サンヲ待ラフ  
 カ誰ヲシテ主客共ニ無禮ナキ様其是非曲直ヲ定メシメンカト考ヘマ

スレハ苦心ノ至リコテ御同様法律ニ従事スルモノハ枕ヲ高フシテ眠  
リテ居ル譯ニハ行キマスマイ若シ公明正大ニ取回シタル治外法權ヲ  
行ハントスレハ猫コ小判ト云ハン歟狂人ニ乃物ヲ持タスト云ハン歟  
其價打モ分ラス却テ害ヲ爲ス様コテハ大迷惑御互ノ法律家ハ實ニ心  
配テ御座リマスカラ奮發シマシヨウテハ御座リマセヌカ我邦ハ二千  
五百餘年ノ太古ニ紀元スレトモ民力文物制度共今日ニテハ泰西人ニ  
魁ケセラレ平等均一ノ交際ヲ得ント思ヘハ何モ蚊モマネスルカヨイ  
踊ルカ宜ヒ舞ウカ宜ヒ衣ルカ宜ヒ髻フカ宜ヒ飲ムカ宜ヒ食フカ宜シ  
ヒト云フ輿論公議ナレトモ實ハ能ク考ヘテ見マスルト夫程何モ蚊モ  
眞似スルトハトウタロウカト識者ノ心配スルコトテスカツマリ眞似  
スルモ知ラス識ラス彼レニ遣ハレルニアラス彼ヲ遣フテヤル積テア  
ラウカラ宜ヒ我邦カ是迄ニ自ラ作り出シタル義理作法ニ據リ萬般ノ

コトヲ取行フニハ時己ニ晚シ法律ニテ云ヘハ羅馬ヤ英吉利ノ法律家  
 カ自ラ悟テ平等均一ノ裁判公正ヲ致スノ基ヲ開キマシタ様ニ御互ニ  
 自ラ之ヲ作出スニ暇カ無クツマリ御互ハ既ニ一本ヤラレタ譯テ外ヨ  
 リ制セラレテ之ヲ與フルノ勢ニテ理窟上ヨリ云ヘハ私ヲセヌト云フ  
 譯ナレトモ殘念テハ御坐リマセヌカ併シ夫レハ余義ナキ次第此上ハ  
 其善ヲ採リ羅馬英吉利法律家ノ精神ヲ學ヒ公平無私平等均一ナル裁  
 判ノ基ヲ開キ我邦司法權ノ上達ノミヲ以テスルモ英米兩國ニ劣ラヌ  
 ト世界テ許スマテヤロウテハアリマセヌカ私ノ考ヘテハ外ノコトハ  
 固ヨリナレトモ既ニ申上タル裁判ノ公正ハ實ニ著シク右兩國ノ他國  
 ニ超ヘテ勝レタルコトハ疑ナケレハ斯ク申上クル譯テ日本ノ信用ニ  
 ハ裁判ノ公正及威嚴存スレハ外ノコトハ少シモ真似セスシテ歐米文  
 明國ノ上ニ出ツルコトカ容易テ御坐リマス右様ノ時機テアリ右様ノ

沿革テアリ理窟カアリマスガテ御互ニ其學ヲ辱メス其位ヲ進マシメ  
萬國ニ我邦法律ノ公正ヲ示シ東洋風ニ面リハテシキヲシナガラ背ロ  
テハ惡口ヲ言フ様ナラ未タ善ケレトモ其レノミナラス陽ハコ作法ヲ  
示シ置キ乍ラ陰ニ之ニ背テ居ル様ナ待ヒ方テハ御客様ニ對シテ失禮  
ナ譯ナリ物皆同シ理窟ナレハ御互ニ法律ノコニ從事スルモノハ聊カ  
報國ノ積ニテ法律ノ名分立ツ様ニ盡カシ所謂文明國法律ノ原則ヲ採  
リ我國權ヲ尊ヒ我人權ヲ保タシムル様法律ノ應用ヲ圖リマシヨウ私  
ノ話ハ是テ終ル積ナレト一言更ニ加ヘタギハ他ナシ已ニ申上タル通  
リ御互ノ事ハ士人仕事ニテツマリ人ノ信用ヲ待テ之ヲ扱フモノナルカ  
若シ御ベツカ主義ニテヤラネハ食ヘヌ様ナ法律家ナラ致方ナケレト  
御互ニ多少位置アル上ハ飽クマテ士人ヲシク事ヲ執リ其身ヲ辱メス  
其學ヲ汚サヌ様ニ考ヘネハナリマセヌ法律家ト云フモノハ職人トハ

違ヒ金儲ケノミニデハナク其位置ノコトヲ考ヘテハナリマセヌ私ノ  
友達英國議員カウゑん氏カ演説シタル通り人皆政治家ハ尸位ヲ貪リ  
虛名ヲ釣ルノ職人ト思ヘトモ余カ執ル所ノ政治主義ハ宗旨同様信仰  
ニ出テタルモノニシテ之ヲ主張スルハ余カ務ナリトシテ主張スルモ  
ノニシテ余カ身ハ之ニ杖リテ動カス余カ行ク道ハ余カ信スル所ノ道  
アルノミ余カ信仰ハ政黨ノ爲メニ動サレス余カ主義ハ多年ノ學得ニ  
シテ時論ノ爲メニ變スルノ流行主義ニアラスト宜ナル哉我法律家ヨ  
リ下視スル所ノ政治家ニシテ此言アリマス私モ固ヨリ之ヲ承知致シ  
居ルコトハ先刻ヨリ申上タルコトニテ分リマシヨウガツマリ法律家ハ得  
タルノ信用ハ之ヲ墜サス學ヒタルノ學識ハ之ニ反カス養フタルノ氣  
力ハ之ヲ奪ハレス貴キ法律家ノ位置ヲ守ル様ニ致シタイモノテ御坐  
リマス之レガツマリ代言人改良ヨリ法律家全体ノ進歩ヲ圖ル第一名

策ト考ヘテ宜シカロウ是亦多少善積サンノ御望ヲ足シタル積テ御坐  
リマス私ハ實ハ此事ヲ常ニ思フテ居リマスコトハ先年アリタコトヲ  
以テ分リマシヨウカ或横濱人ヨリ外國交渉ノ私訟事件ヲ依頼セラレ  
私ハ飽クマテ相手ハ外國人ダケレトモ大丈夫ナリト深ク考ヘテ受合  
置キタルニ俗人トテ致方ノ無ヒモノニテ心配ノ餘リ私ニ頼ミ置キナ  
カラ誰カ知ラヌガ如何ナル位置勢力ノアル人カハ分ラヌカ其御方ノ  
御心配デ訴ヘラレヌコトニハナリマシタカ少シモ落度ハ無ク言ヒ掛  
ケラレタ計リニ數萬圓損シタ始末ニナリマシタヨリ私ハ我法律家ノ  
位置ヲ辱カシメ又我國人ノ見識ヲ墜シ我政府カ爲メニ設ケタル裁判  
所ヲ利用セスシテ右様ノ始末ヲ付ケマシタテ惡ミ三行リ半ノ手紙ヲ  
ヤリテ依頼人ノ縁ヲ切りマシタツマリ私ハ其人ニ嫌ハレ後來一人ノ  
御得意サンヲ失フテ損シタル譯カモ知レヌカラ上手ナ御方ハ私ノ阿

呆チ笑フカモ知レマセヌカ己ニ申シタル通り法律學ハ法律家ノ宗旨  
 トアレハ之チ辱カシメラル、アアラハ心ニ堪ヘラレヌ譯テ御坐リマ  
 スカラ頑固ナカラ右ノ別レテシタテ御坐リマス私ノ考ニテハ我カ  
 擔當シタル事柄ニ付キ依頼シ置キ乍ラ法律ノ外ニ出テ事ノ落着チ圖  
 ルモノアラハ其事ノ公私内外尊卑如何チ問ハス又幾ラ代言料チ損シ  
 テモ飽クマテ横濱ノ例チ守リ本尊ト致シ直チニ離縁チ申出ル積リテ  
 御坐リマス私ハソコトニテ落着シタル公事ナレハ勝ツテモ勝ツ  
 タテ御坐イマセンカラ潔ク別レル積リテ御坐リマス余リ長タラシ  
 ク御耳チ汚シタル段ハ恐入リマスカ皆様ハ勿論我邦ノ法律家及法律  
 ノ改良チ圖ルモノ、參考ニナリ又其思半ハニ過クルコトモアラシカ  
 ト考ヘマシテ遂々長話チ致シマシタ

トナリ

第八號答 誤字モ脱字モ無シ裁判ニ因テ裁判官カ權利ヲ得ルコアラ

ス亦義務ヲ負フニアラサルヲ以テナリ

第九號答 救濟ノ手續トハ訴ヲ起スヲ謂フ

第十號答 物ヲ買テ現ニ受取タレハ之カ代價ヲ拂フヘキカ如キヲ云

第十一號答 質問ノ點解シ難シ第一問ノ答ヲ見ラレヨ

第十二號答 賠償ヲ受クルカ權利ニシテ之ヲ受ケシムル即チ賠償ヲ

爲スハ義務ナリ

○組合法

第十問 (十七頁) 黒田末吉

組合成立條件ノ第五ノ要素ニ於テ利益ヨリ損失ノ超過セシ時ハ必ス  
其損失ヲ共擔スルヲ要セス利益ヨリ損失ノ減少セシ時ハ必ス其損失

ナ共擔スルヲ要ストハ抑モ如何ナル理由アリテ然ルカ己ニ利益分配  
 ハ組合成立ノ必要條件ニシテ利益ノ損失ヨリ超過セシ時ト減少セシ  
 トキトナ問ハス必ス分配セサル可カストセハ損失ノ點モ利益ヨリ超  
 過スルト減少スルトナ問ハス共擔スルコソ道理ニ適フ如シ如何  
 又損失ノ利益ヨリ超過セシ時其損失ヲ共擔シ及損失ノ利益ヨリ減少  
 セシ時其損失ヲ共擔セサルノ契約ハ第三者ニ對シ如何ナル效力アル  
 乎  
 答 組合員間ニ在テハ必スシモ損益ヲ平等ニ分擔スルヲ要セストノ  
 意ナリ第三者ニ對シテハ何等ノ効モナシ其責任ヲ負フハ他ノ組合員  
 ト異ナルコトナシ

第十一問 (五十七頁) 福井縣 蒲 八 郎  
 社外人ハ組合員ノ提供スル財本ヲ組合ノ財本ナリト思惟ス可キ義務

アリヤノ疑問ニ對シ種々辨解ハセラレタレトモ未ク全ク了解スル能  
 ハス要スルニ社外人ハ組合ノ財産ニアラスジテ該組合員一己ノ財産  
 ト思惟シテ可ナリト云フ意ニアルカ  
 答々然リ法律上ニ於テハ反對ノ證左ナケレハ先ツ如斯ク推定スルナ  
 リ

第十二問 (四頁)

高野 龜吉

組合ナルモノハ大概人員ノ數少ナキテ常トス英國ノ如キハ成文律ヲ  
 以テ其人員ニ限ル處アリ云々トハ其英國成文律ニテハ人員ノ數少ナ  
 キト云フ定義ハ凡ソ何人位ニ及ホスモノナル乎  
 答 銀行營業ノ場合ニ於テハ十人其他ノ營業ニ於テハ二十人ヲ限リ  
 トス

第十三問 (十九頁)

北其川 鉄藏

第二條件組合商業ハ損失ノ利益ニ超過シタル場合ト雖其損失ヲ共擔  
 フルコトヲ契約スルヲ以テ常トスト然ルニ前組合商業成立ニ必要ナ  
 ル條件第五ノ場合ニ於テハ「利益ヨリモ損失ノ超過シタルトキニハ必  
 此損失ヲ共擔スルヲ要セス之レニ反シ若シ其二圖ノ如ク利益カ損失  
 ニ超過シタルトキハ必其損失ヲ共擔セサルヘカラス」トアリ之レニ因  
 テ之レヲ見レハ前後相矛盾スルト云ハサル可カラス何トナレハ前ニ  
 ハ損失ヨリ利益ノ少キトキハ損失ヲ共擔スルニ及ハスト云ヒ又後ニ  
 ハ損失ヨリ利益ノ少キ場合ト雖モ其損失ヲ共擔スルヲ以テ常トスト  
 云フニ外ナラサルナリ故ニ如何ニモ解シ難キヲ以テ宜敷解釋ヲ願フ  
 答 組合員カ組合員トシテ世間ニ對シ責任ヲ負フコト、各組合員相  
 互ノ間ノ關係トテ區別スルヲ要ス然シテ組合員相互ノ間ニ付テ云  
 フトキハ必スシモ平等ニ損益ヲ分擔スルヲ要セス又全ク利益ノ分

配ヲ受ケサルモノト雖モ世間ニ對シテハ組合員トシテ名義ヲ顯ハシ居ル爲メ他ノ組合員ト同様ノ責任ヲ負ハシメラル、コトアリ要スルニ此處ハ只組合員内輪ノ關係及權理義務ヲ説キタルナリ

第十四問 (四十九頁)

普通ノ方法ヲ以テ營業スルトキニ限ル可ク非常ノ營業ヲ爲サントシテ組合ノ嘗テ豫期セサル方法ニテ商業ヲ營ミ金借ノ必要ヲ生スルモ此必要ヲ以テ組合ニ償却ノ義務ヲ負ハシムルヲ得サル可シト此普通ノ方法非常ノ營業トハ如何

答 其組合營業以外ノ營業ヲ指シテ非常ノ營業ト云フ設ヘハ鐵道營業組合カ船舶ヲ買入ル、如キ場合ナリ普通ノ方法トハ其組合カ常ニ慣行トシテ行ヒ居ル方法ヲ云フ設ヘハ常ニ其組合ニテ金圓ヲ借入ル、トキハ爲替手形ヲ振出シ以テ之ヲ調達スルトセハ是レハ其

組合ニ取リ普通ノ方法ナリ  
第十五問 (五十頁)

又契約ヲ爲ス權アレハ從テ之ヲ變更スルノ權アル云々茲ニ契約ト云フハ契約ノ全部ヲ指シテ云フタルモノカ將タ其一部分ナリヤ若シ契約全部ニシテ如何ナル契約ニテモ結フモノトスレハ捺印契約ノ如キ證書ヲ一旦對手ニ渡シタル以上ハ之ヲ變更増減ス可カラサルモノアリ而シテ茲ニハ只契約ト云フヲ以テ見レハ契約全部ナルカ如シ故ニ設ニ組合員ハ之ヲ變更スルノ權アルニモセヨ捺印契約ノ如キ變更増減ス可カラサルヲ以テ見レハ只其一部分ナルカ如シ故ニ其取捨ニ困難ナルヲ以テ組合員ノ爲シ得ル契約ハ其全部ナルカ將亦一部分ナルカ説明ヲ乞フ

答 通常人カ契約ヲ爲シタルトキト異ナルコトナシ

○英文法律書出版前金購買者募集廣告

實務ニ急需アル學術ハ法律ニ若クハナシ實地應用ニ適切ナル法律ハ英吉利法律ニ若クハナシ抑本校ハ邦語ヲ用ヒ主トシテ英吉利法律ヲ教授シ世務ニ能堪ノ士ヲ養成セシムコトヲ勤メリ然ルニ熟社會ノ情勢ヲ察スルニ今ヤ内外人ノ交際日ニ繁キヲ致スノ秋ニ方リ區々邦語ニ依リ外國法律ヲ授クルカ如キハ未以テ有爲ノ士ヲ陶冶スルニ足ラサルナリ本校夙ニ此ニ見ル所アリ本期ヨリ英語及歐文法律書攻修ノ科目ヲ創置セリ然ルニ之ヲ實施スルニ方リ大ニ不便ヲ感スルモノハ英吉利法律書ノ價值極メテ高貴ニシテ尋常學生ノ容易ニ購求スル能ハサル是レナリ加之坊間書肆ニシテ英吉利法律書ヲ蓄フル者甚稀ニ今試ニ各肆ノ律書ヲ網羅スルモ尙本校教科書ニ供スルニ足ラサルナリ是ニ於テカ本校ハ斷然資ヲ擲テ英書ノ翻刻ニ從事シ務メテ其價ヲ廉ニシテ專ラ本校學生ノ教科書ニ充テ傍ラ江湖諸士ヲシテ容易ニ英法ノ原書ヲ購讀スルノ便ヲ與ヘント欲ス若夫レ出版及購求ノ方法ノ如キハ左ノ數箇條ニ就キテ了知セラレシムコトナ

第一條 第二科第一年級ノ教課用ノ爲メ初歩ノ法律書中ノ最善長ナル者ヲ選ヒ翻刻スルニ付前金購買法ニ依リ廣ク江湖ノ需ニ應ス

出版書目 ○ブラクストン氏英法註釋一八八〇年新版 ○アンソン氏契約法 ○アンダーヒル

氏私犯法○マークビー氏法律論綱○スミス氏商法○ボロック氏組合法○ケント氏親族法○ブルーム氏英法註釋○スミス氏訴訟法○ストリー氏代理法

第二條 書籍ハ中形ノ冊子體ニ編輯シ毎月三回ニ分チ之ヲ出版シ一回ノ紙數一百ペーシ内外ニシテ一ペーシ凡十字詰四十行トス

第三條 一冊ノ定價ヲ四十錢トシ前金購買者ヘハ特ニ二割五分引即三十錢ノ代價ヲ以テ配付ス

第四條 前金購買者ハ一ヶ月分ノ代價即金九十錢ヲ前月末マテニ當校會計掛ヘ拂込ムヘシ

第五條 英吉利法律學校内外生徒ハ格別ニ五割引即一冊二十錢ノ代價ニテ購買スルコトヲ得但代價拂込手續ハ第四條ニ據ルヘシ

第六條 今回ノ出版ハ第一條ニ記載ノ書籍ヲ悉ク出版シタルトキハ第一回ノ英文出版事業ヲ了リタルモノトス

第七條 今回出版ノ書籍ハ英文法律書中ノ純粹ナル者ヲ撰拔シタルナレハ各專門公私諸學校中地方中學校師範學校等ノ敎課書ニ最適當ナリトス

明治二十年四月

英吉利法律學校

○第一科教課及受持講師姓名(ハ参考科外)

一 法學通論 每週 法學士 山田喜之助  
 一 契約 法全二時 法學士 土方寧  
 一 私犯 法同上 法學士 奧田義人  
 一 親族 法全一時 法學士 山田喜之助  
 一 日本刑法 法同上 法學士 岡山兼吉  
 一 代理 法同上 米國法律學士 菊池武夫  
 一 動產委託法 法同上 法學士 元田義人  
 一 組合 法同上 法學士 松野貞一郎  
 一 英語 學同上 菅沼達吉  
 ● 英國刑法 法同上 法學士 澁谷慥爾  
 ● 羅馬法 法同上 法學士 水戸寬人  
 ○ 論理 學同上 法學士 坪井九馬三  
 ○ 判決 學同上 法學士 植村俊平  
 ○ 理財 學同上 法學士 駒井重格  
 ○ 第二學年 每週 法學士 高橋捨六  
 一 不動產 法同上 法學士 伊藤梯治  
 一 動產 法同上 法學士 山田喜之助

一 財產 法同上 法學士 增島六一郎  
 一 證據 法同上 法學士 岡村輝彦  
 一 會社 法同上 法學士 植村俊平  
 一 流通證書 法同上 法學士 土方寧  
 一 商船 法同上 法學士 高橋健三  
 一 治罪 法同上 法學士 松野貞一郎  
 一 訴訟 法同上 法學士 增島六一郎  
 一 民擬律擬判 法同上 法學士 菊池武夫  
 一 判決 例同上 法學士 植村俊平  
 一 英語 學同上 菅沼達吉  
 ● 米國法律 法同上 米國法律學士 シドモル  
 ● 民訴訟演習 同上 三阪繁人  
 ● 刑法 學同上 王藤勝人  
 ○ 成法 學同上 法學士 奧田義人  
 ○ 保險 法同上 法學士 高橋健三  
 ○ 國際公法 法同上 法學士 伊藤梯治  
 ○ 訴訟演習 法同上 法學士 植村俊平  
 一 財產 法同上 法學士 增島六一郎

第一學年

ブルーム氏

●英法註釋每週法學士 山田喜之助

●日本刑法同上法學士 岡山 兼吉

●マケビ氏同上法學士 江木 泰

●法律論綱同上法學士 馬場 愿治

●アンソン氏同上法學士 大谷 不備一郎

●契約同上法學士 大谷 不備一郎

●アンダーヒル氏同上法學士 大谷 不備一郎

●私犯同上法學士 大谷 不備一郎

●ストリー氏同上法學士 大谷 不備一郎

●代理同上法學士 大谷 不備一郎

●ストリー氏同上法學士 大谷 不備一郎

●動產委託同上法學士 元 田 肇

●ケント氏同上法學士 山田喜之助

●親族同上法學士 山田喜之助

●ホロック氏同上法學士 山田喜之助

●組合同上法學士 松野 貞一郎

●スミス氏同上法學士 澁谷 懺爾

●訴訟同上法學士 澁谷 懺爾

●ハリス氏同上法學士 澁谷 懺爾

●英國刑法同上法學士 澁谷 懺爾

●スミス氏同上法學士 澁谷 懺爾

●一商同上法學士 伊藤 悌治

●テリイ氏同上法學士 藤田 隆三郎

●一法律原論同上法學士 澁谷 懺爾

●セボン氏同上法學士 坪井 九馬三

一破産 法同上 法科大學 卒業生 中橋 徳五郎

一訴訟 法同上 法學士 増島 六一郎

一保險 法同上 法學士 伊藤 悌治

一衡平 法同上 法科大學 卒業生 戸水 寛人

一沿革法理學 同上 法學士 増島 六一郎

一分折法理學 同上 法學士 奥田 義人

一羅馬法 同上 法科大學 卒業生 戸水 寛人

一國際公法 同上 法科大學 卒業生 植村 俊平

一國際私法 同上 法學士 山田喜之助

一判決 例同上 法科大學 卒業生 植村 俊平

一刑擬律擬判 同上 法學士 菊池 武夫

一英語 學 同上 法學士 吉田直太郎

一憲法 同上 法科大學 卒業生 植村 俊平

一行政法 同上 法學士 江木 衷

●米國法律 同上 米國法律學士 シドモール

●動産差押法 同上 法學士 シドモール

●訴訟演習 同上 法學士 シドモール

●刑擬律擬判 同上 法學士 東三條 公恭

○第二科 教課及受持講師姓名

三 藤 則 繁 人  
工 藤 則 繁 人  
三 藤 則 繁 人

○廣告

今般司法省ヨリ特ニ本校へ毎年金  
五千圓宛下賜相成候條此段校外生  
諸君へ御報致候也

明治二十年四月七日

英吉利法律學校

本校參用考書目

左ノ書籍參考用ノ爲メ本校生徒ニ限リ特別廉價ヲ以テ讓渡シ候

法學士渡邊安積編輯

○羅馬法

法學士渡邊安積講義

定價金壹圓  
特別廉價金七拾錢  
遞送費三拾貳錢

○アンソンの契約法

法學士山田喜之助著

定價一冊金八錢  
又ハ拾錢  
拾三冊マテ出版濟

○英米代理法

法學士山田喜之助著

定價金壹圓  
特別廉價金七拾五錢

○註補英國私犯法

法學士山田喜之助著

定價金七拾五錢  
特別廉價金五拾錢

○麟氏會社法

定價金壹圓三拾錢  
特別廉價九拾五錢  
遞送費金拾四錢

THE IGIRISU HÖRITSU

GAKKŌ TEXT-BOOK

英文法律書

第十六第十七號出版セリ○第十六號目次

●ブルーム氏英法注釋●第十七號目次●

●ブラックスストン氏英法注釋●アンソンの

契約法

英吉利法律學校

明治二十年四月廿三日 (定價金貳拾錢)

持主 增島六一郎

印刷人 大谷木備一郎

編輯人 澁谷慥爾

神田區錦町貳丁目貳番地

發行所 英吉利法律學校